

サプライチェーンESG グローバルリスク展望 レポート2024

ESG リスクの状況を方向付けるのは主要市場における強制労働の
リスクと透明性レベルという問題

LRQA

目次

概要	03	－ 企業倫理	20
LRQAによるESGリスク評価の概要	05	－ マネジメントシステム	22
世界的なリスク傾向	06	－ 安全衛生	23
サプライチェーンのESGリスクにおける上位地域および下位地域	08	国別フォーカス:問題のあるリスク傾向を示す主要市場	26
－ 労働	09	リスクに関する洞察を活用した積極的なリスク是正の強化	29
－ 強制労働	10	EiQについて	31
－ 労働時間	14	LRQAによるESGリスク評価の概要	32
－ 賃金	15	データの入手性	33
－ 人道的扱いのリスク	17	データソース	34
－ 環境	18		

概要

ESG（環境、社会、ガバナンス）に関する既成概念はひとまず横に置いて、次のことを自問してみてください。あなたの組織はその労働者の人権を守り、労働条件を優先させていますか？

サプライチェーンの業務に対する意識や監視は年々高まり続けていますが、それに伴いリスクの影響度も大きくなっています。グリーンウォッシング、企業の責任やデューデリジェンスを取り巻く反発、さらには「グリーンハッシング」といったものは、いずれもサステナビリティや責任ある調達は何を含むべきかに関して誤解を生み出していますが、結論を言えば、環境への影響の低減を通じてであれ、労働者の基本的人権に対する侵害の軽減を通じてであれ、企業は自らの事業による負の影響を減らす責任を負うということに尽きます。これはサプライチェーンの ESG におけるデューデリジェンスの根本であり、責任ある調達プログラムの強化を支える推進力であるべきものです。この考え方を適用することで、企業はサプライチェーンにおける現在および将来の規制を忠実に守ることのメリットを容易に獲得し、人と環境を優先する企業として投資家や消費者の信頼を確立できるようになります。

概要

LRQA の 2024 年レポートは、強制労働や賃金の不公平、過剰な残業時間などサプライチェーンに浸透する最も顕著な ESG 上の課題と、さらにそこからこうした脅威が最も高いのはどの地域なのかを明らかにしています。LRQA の評価により得られる重要な指摘には次のようなものがあります。



世界では
分析した調達地域の半数近くで前年度よりもサプライチェーンの全体的リスクが高くなりました。



70 を超える地域において
2024 年に報告された透明性スコアは低下しており、リスク水準が報告よりさらに高くなる可能性があることを示しています。



90 を超える地域において
2024 年は安全衛生違反のリスクが高いか、もしくは極めて高くなりました。



サプライチェーンの主要調達市場では、世界中でサプライチェーンにおける強制労働の事例を規制する各政府が注目度を高めていてもなお、強制労働のリスクは上昇していました。

2024 年に強制労働のリスクが高まったと報告された地域には、中国、オランダ、米国、オーストラリア、英国、インドなどがあります。

本レポートにおける洞察は LRQA のサプライチェーン・デューデリジェンス・プラットフォームである EiQ で見いだされたサプライチェーン ESG リスク評価から導かれています。この評価は現場の監査データ（年間 20,000 件以上）に市民団体の調査を組み合わせたものです。サプライチェーンの ESG リスクや進展する状況を方向付けている傾向について理解を深めることで、LRQA は各企業に対して、潜在的な脅威の軽減や高まるデューデリジェンス要件の遵守におけるサポートをより適切に行うことができます。

本レポートはまた、LRQA の従業員調査からの洞察や苦情処理チャネルを用いた現場からのデータも組み込んでおり、労働者の声を用いたより全体的なリスクの様相を示すものとなっています。

本レポートの内容は、100 カ国以上での LRQA の現場活動で得たデータを用いる EiQ プラットフォームを元としています。

EiQ EiQ について詳しくはこちらをクリックするか、または LRQA までお問い合わせください。

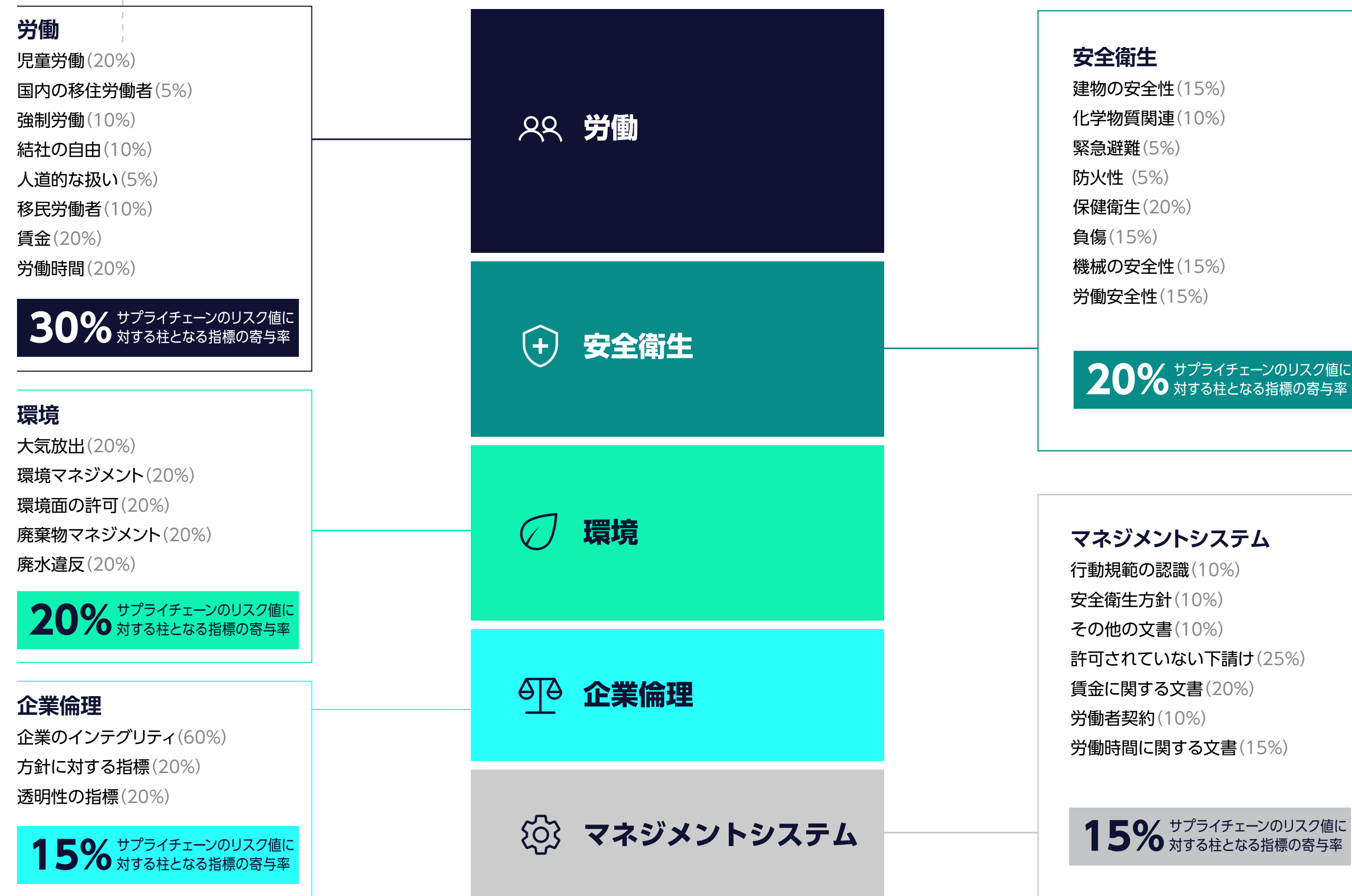
LRQA による ESG リスク評価 の概要

LRQA の地理的 ESG リスク評価は、38 項目以上の重要な ESG メトリクスに照らして最もリスクの高い地域について包括的に概要を示しています。これらのメトリクスは「労働」「安全衛生」「環境」「企業倫理」「マネジメントシステム」という 5 つの「柱（ピラー）」となる重要カテゴリーに分類されています。それぞれの国または地域はサプライチェーンの全体的リスク評価、LRQA が設定するサプライチェーンの 5 つの柱となるカテゴリーそれぞれに対する評価、およびこれら 5 つの柱の下にあるサブカテゴリーに関する 31 項目の評価を受け取ります（右側に詳細）。

これらの評価は国または地域レベル、および該当する場合は地方レベルで固有の調達リスクを示しています。各評価は内在する ESG リスクまたは地域特有の調達活動に伴うリスクを測定しており、リスクを管理するために事業体の側でまだ活動やプロセスに着手していない場合にその事業体が被る最悪ケースのシナリオやリスクの最大影響度を企業が理解するのに役立ちます。固有リスクの分析は優先順位に関する疑問、すなわち当該サプライチェーンのどの分野、あるいは事業運営するどの地域がサプライチェーン ESG リスクの各形態に最もさらされているのかに対する答えとして応用するのが最も一般的です。

Five pillars of responsible sourcing ESG risk

Sub-index contribution to pillar index



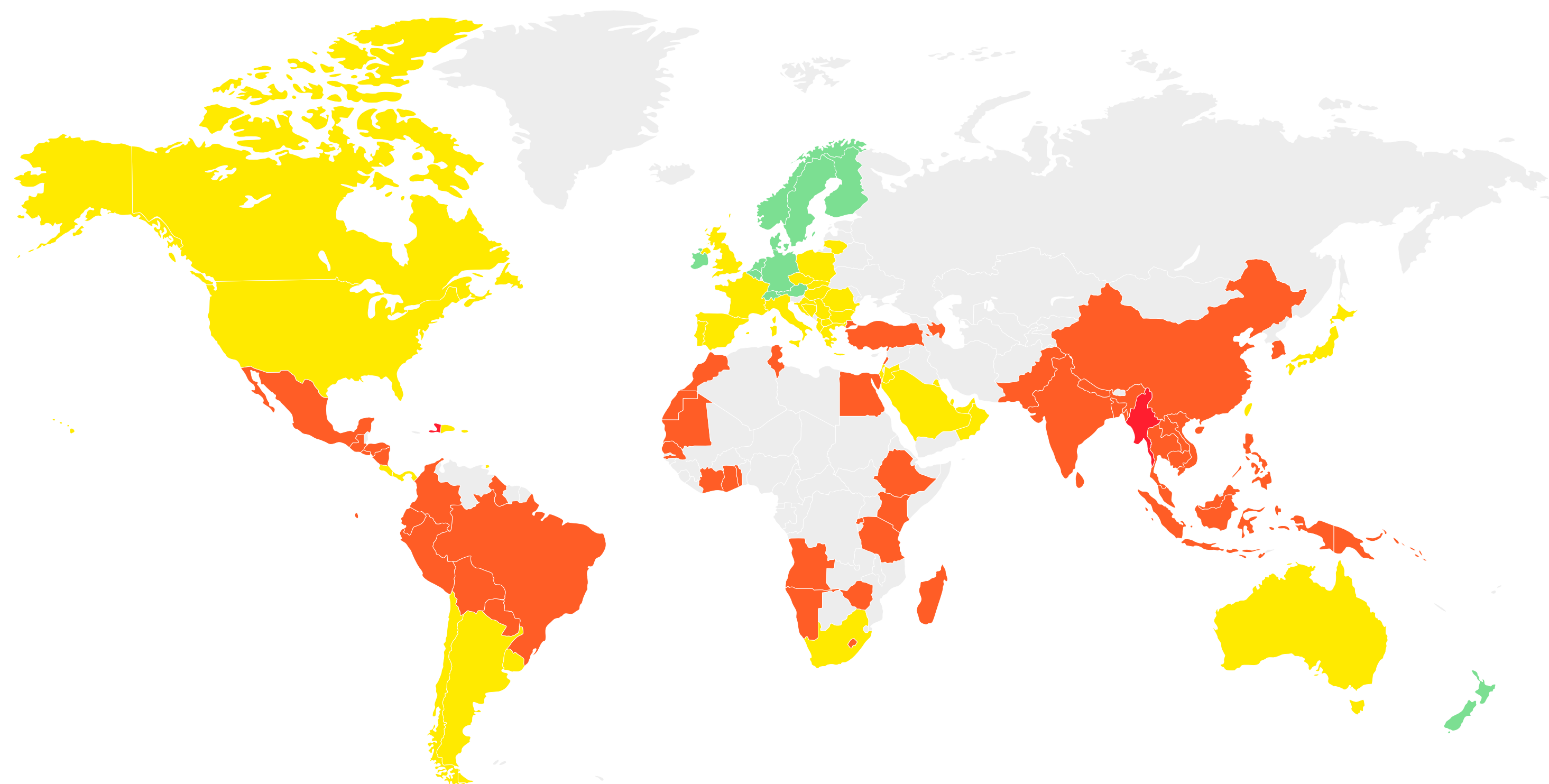
世界的なリスク傾向

世界では、分析した調達地域の半数近くで 2023 年よりもサプライチェーンの全体的リスクが高くなりました。

2024 年現在の傾向はリスク状況を一層複雑なものにしています。世界中の内戦は外国人移住労働者のリスクに影響を与えている一方、気候リスクは環境リスクと人権リスクが相互に関係していることを浮き彫りにしています。それと同時に、進展するデューデリジェンス規制は善意によるものながら、リスクを下げるというよりもむしろサプライチェーンにおける透明性を低下させる事例を生み出している可能性があります。企業がデューデリジェンスのベストプラクティスを自社の責任ある調達プログラムに実装するためには、全体的な業務状況をよりよく理解する必要があります。

まずは LRQA のリスク評価で明らかになった主要な指摘事項を示し、その後課題別および地域別にさらに掘り下げて洞察していきます。これらの評価は LRQA のサプライチェーン・デューデリジェンス・プラットフォームである EiQ 上で生成したデータを元としています。このプラットフォームは機械学習に外部監査から得た強力なデータ群と信頼できる民間の社会調査を組み合わせ活用し、調達地域や製品、個々のサプライヤーに関するリスク分析を行います。

世界全体のサプライチェーンリスクに関するヒートマップ、EiQ より



リスクの凡例 ● 極めて高い (0 ~ 2.49) ● 高い (2.50 ~ 4.99) ● 平均的 (5.00 ~ 7.49) ● 低い (7.50 ~ 10)

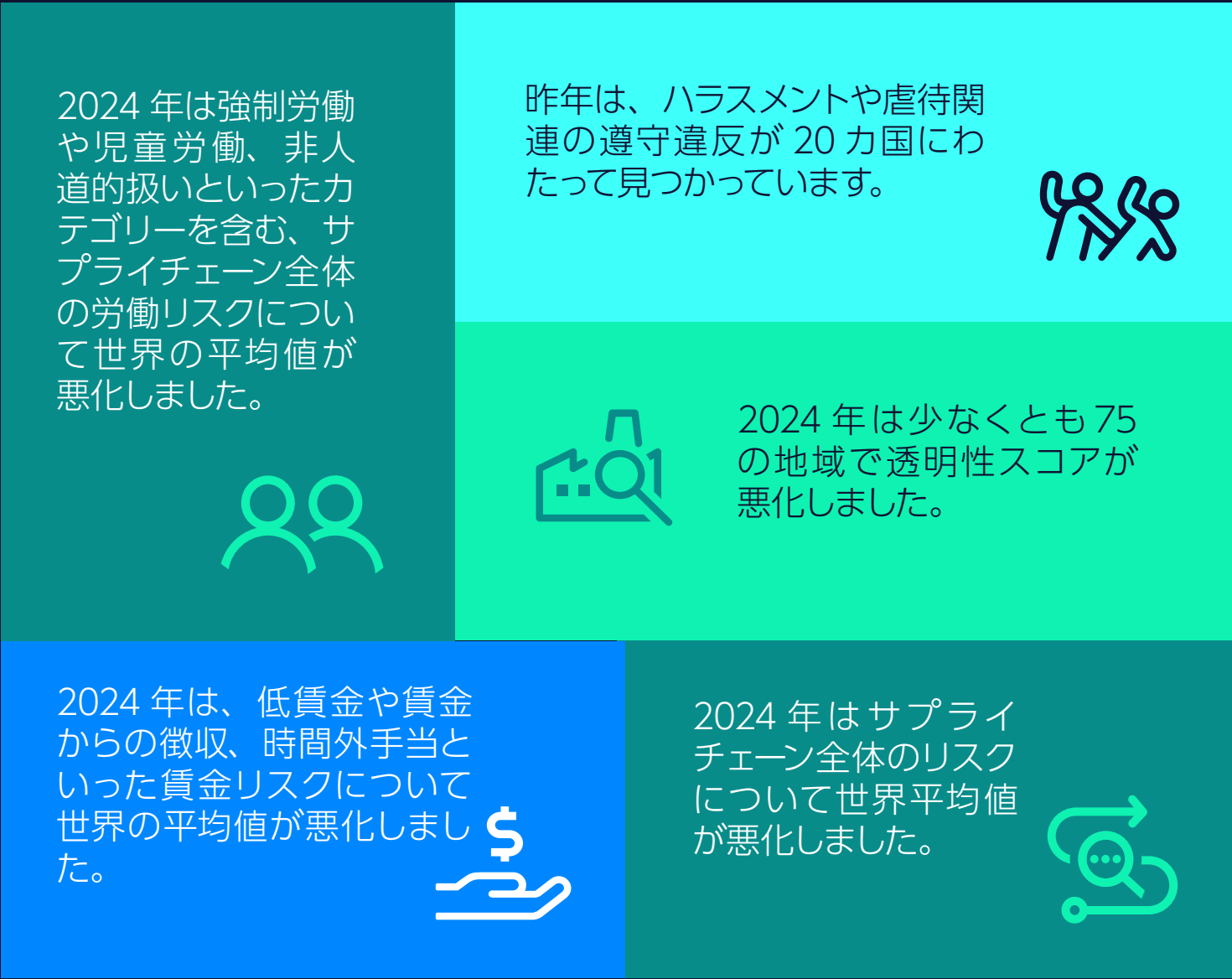
LRQA の各ヒートマップはリスクデータ全体を表し、LRQA の EiQ プラットフォーム内で見ることが可能です。サプライチェーンの ESG リスクに関する上位および下位それぞれ 5 地域の集計は監査数量に基づいています。また各リストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。

サプライチェーン全体のリスク指標は、LRQA の監査データ群をもとに特定の地域から得た調達に関連するリスクレベルを反映しています。これは LRQA が 5 つの ESG の柱として分類する労働、安全衛生、環境、企業倫理、マネジメントシステムの値を集計することで生成しています。

世界的なリスク傾向

LRQA のデータは、主要なサプライチェーンの ESG 問題や違反の多くでリスクが上昇していることを示しています。2024 年には少なくとも 78 地域で全体リスクが高くなっており、これは分析した調達地域の 1/3 近くに相当します。

2024 年は、サプライチェーン全体の ESG 違反についてはリスクが高いか、もしくは極めて高いと分類された国はほとんどありませんでした。しかしながら、特にサプライチェーンのリスク、すなわち監査データのみからなるスコアでは、2023 年よりも 2024 年にリスクが高い、もしくは極めて高いと示される地域が増加しました。



EiQ による前年比リスク傾向

	2024	2023
サプライチェーン全体のリスク	52 の地域についてリスクが高い、もしくは極めて高いと分類される	45 の地域についてリスクが高い、もしくは極めて高いと分類される
強制労働のリスク	58 の地域についてリスクが高い、もしくは極めて高いと分類される	56 の地域についてリスクが高い、もしくは極めて高いと分類される
賃金リスク	50 の地域についてリスクが高い、もしくは極めて高いと分類される	46 の地域についてリスクが高い、もしくは極めて高いと分類される
安全衛生上のリスク	94 の地域についてリスクが高い、もしくは極めて高いと分類される	94 の地域についてリスクが高い、もしくは極めて高いと分類される

サプライチェーンの ESG リスクにおける 上位地域および 下位地域

LRQA は設定した ESG の 5 つの柱それぞれについて上位および下位の地域を特定しているほか、強制労働や賃金問題のリスク、過剰な労働時間といった重要な下位のメトリクスから得られた洞察についても明らかにしています。

労働リスク

この労働指標は労働問題に関するリスクの全体的レベルを反映し、児童労働や強制労働、ハラスメントや差別、賃金や労働時間といったサブカテゴリーから得られるスコアを集計したもので構成されています。この労働指標はサプライチェーンの重大リスク、特に強制労働や児童労働といった一切容認しないリスクに対する洞察を得るのに用いられます。

サプライチェーンのデューデリジェンスに関する法律は数多く生まれ、各企業に対して人権侵害リスクを特定、防止、または最小化するためのリスクマネジメントシステムを確立させるよう要求しています。労働指標はこれらの要求事項に直接寄与して、報告や軽減のプロセスを支援します。

労働リスク指標の分析に適用できる主な規制



ベルギー注意法案



フランス注意義務法



ノルウェー透明性法



英国の現代奴隷法



カナダサプライチェーン強制労働および児童労働防止法



EU コーポレート・サステナビリティ・デューデリジェンス指令 (CSDDD)



ドイツサプライチェーン・デューデリジェンス法



スイスデューデリジェンス義務および透明性に関する施行令



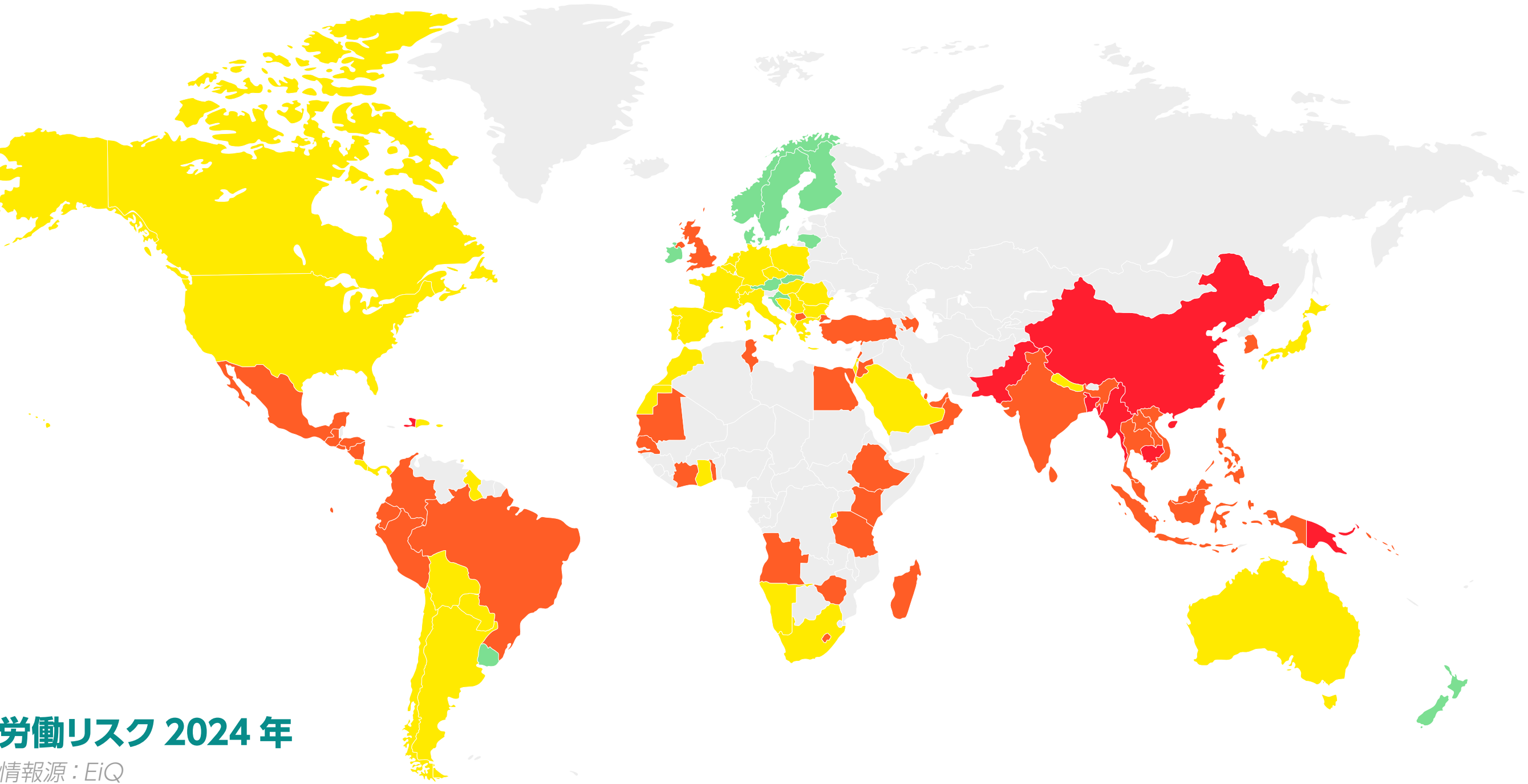
ウイグル強制労働防止法 (UFLPA)



オーストラリア現代奴隷法

サプライチェーンの ESG リスクにおける上位および下位の各地域の集計は監査数量に基づいています。またリストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。

労働リスク



下位評価の地域

地域	スコア	主なリスク要因
 中国	2.12	・労働時間 ・賃金 ・児童労働
 カンボジア	2.34	・児童労働 ・結社の自由 ・労働時間
 バングラデシュ	2.42	・結社の自由 ・労働時間 ・強制労働
 パキスタン	2.46	・結社の自由 ・賃金 ・労働時間
 インド	2.58	・結社の自由 ・強制労働 ・児童労働
 ベトナム	2.61	・賃金 ・労働時間 ・強制労働
 フィリピン	2.79	・結社の自由 ・労働時間 ・賃金
 マレーシア	2.92	・強制労働 ・人道的扱い ・移住労働者
 トルコ	3.06	・結社の自由 ・賃金 ・労働時間
 インドネシア	3.21	・結社の自由 ・人道的扱い ・賃金

上位評価の地域

地域	スコア
 ポルトガル	7.33
 フランス	7.18
 ドイツ	7.05
 イタリア	6.91
 スペイン	6.39
 カナダ	6.10
 オーストラリア	5.84
 日本	5.82
 南アフリカ	5.49

リスクの凡例 ● 極めて高い (0 ～ 2.49) ● 高い (2.50 ～ 4.99) ● 平均的 (5.00 ～ 7.49) ● 低い (7.50 ～ 10)

LRQA の各ヒートマップはリスクデータ全体を表し、LRQA の EiQ プラットフォーム内で見ることが可能です。サプライチェーンの ESG リスクにおける上位および下位それぞれ 5 地域の集計は監査数量に基づいています。また各リストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。

強制労働のリスク

強制労働のリスク

国際労働機関（ILO）によると、2021 年時点で、少なくとも 2,760 万人がいまだ強制労働の状況下にあることがわかっています。企業にとって強制労働は、人権を守るためにサプライチェーンで評価し監視すべき最も重大な ESG リスクの一つです。特にデューデリジェンス規制や強制労働の各調査に関するメディアの監視により、この問題に対する注目が高まっています。グローバル化の進展と複数の国や地域にまたがる複雑なサプライチェーンにより、強制労働のリスクはより広範に広がり、対応が難しくなっています。企業は、消費者、投資家、規制当局などの利害関係者から、サプライチェーンに強制労働やその他の人権侵害がないことを保証するよう、より強い圧力を受けるようになっています。

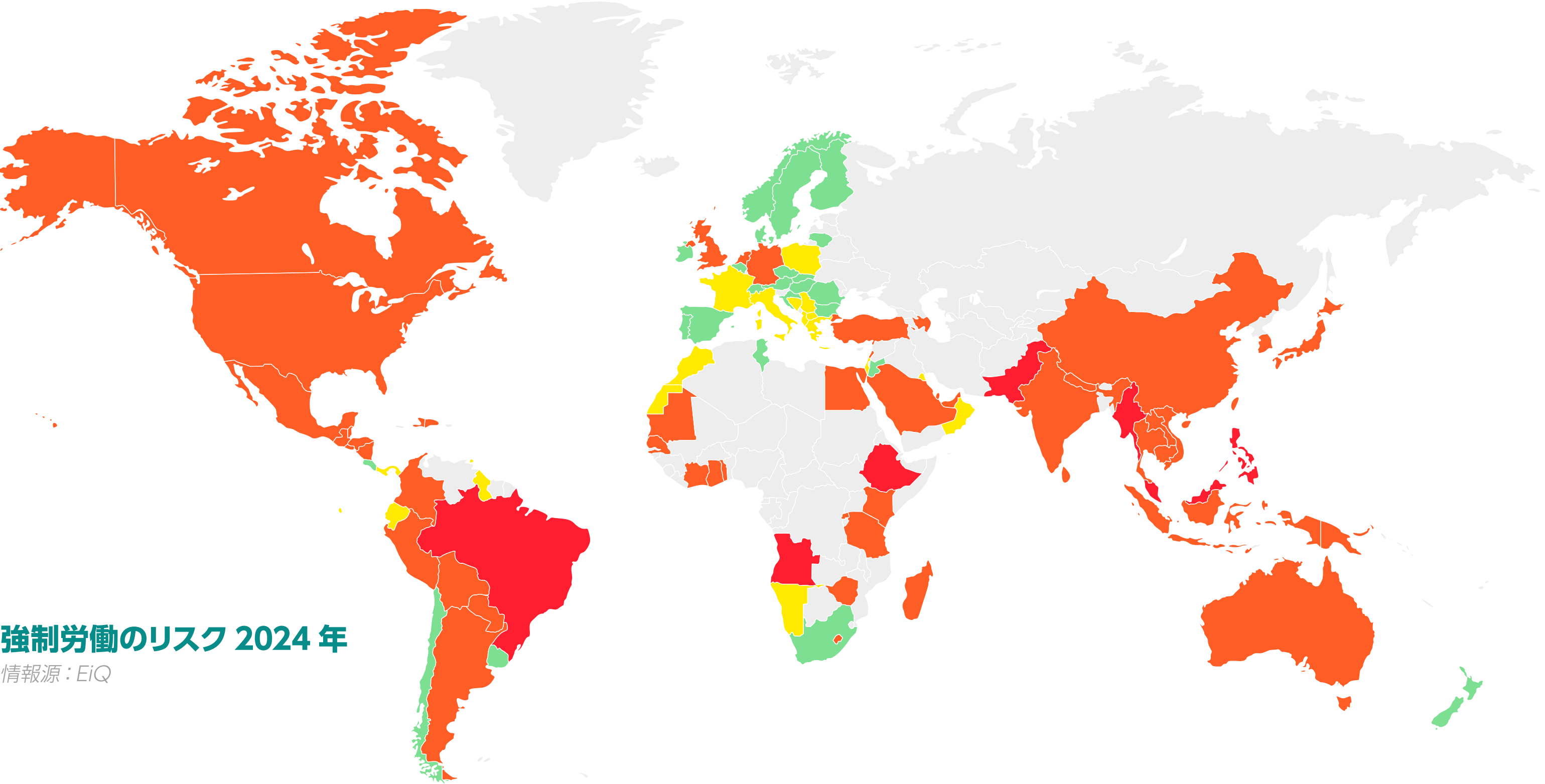
強制労働リスクの世界平均値はこの 1 年で若干改善したものの、サプライチェーンにとって重要な調達市場として特定される地域では、強制労働の事例を規制する各政府の注目が高まってもなお、この指標は悪化を見せていました。2024 年に強制労働のリスクが高まったと報告された地域には、中国、オランダ、米国、オーストラリア、英国、インド等々があります。強制労働の指標は現場の業務や生産から生じる強制労働違反のリスクを反映します。この指標は ILO の強制労働指標に従い、遵守違反の蔓延度に基づいて算出されています。違反例には違法な採用手数料、身分証明書の預かり、時間外労働の強制、移動の制限、賃金の天引きなどがあります。

法的および規制上の影響を超えて、企業は強制労働の事例に晒されるリスクがあり、そのことが企業の評判や信頼性を損なうリスクにつながります。

強制労働のリスク指標分析に適用できる主な規制

 EU の強制労働禁止	 ドイツサプライチェーン・デューデリジェンス法
 メキシコの強制労働禁止	 英国現代奴隷法
 違反商品保留命令 (Withhold Release Orders : WROs) および指摘事項：1930 年関税法改正版	 ウイグル強制労働防止法 (UFLPA)
 カナダサプライチェーン強制労働および児童労働防止法	 オーストラリア現代奴隷法

強制労働のリスク



強制労働のリスク 2024 年
情報源：EiQ

下位評価の地域

地域	スコア	地域	スコア
 マレーシア	● 1.94	 バングラデシュ	● 2.62
 ブラジル	● 2.24	 カンボジア	● 2.78
 フィリピン	● 2.44	 米国	● 2.89
 パキスタン	● 2.48	 タイ	● 2.91
 台湾	● 2.60	 スリランカ	● 3.48

リスクの凡例 ● 極めて高い (0 ～ 2.49) ● 高い (2.50 ～ 4.99) ● 平均的 (5.00 ～ 7.49) ● 低い (7.50 ～ 10)

LRQA の各ヒートマップはリスクデータ全体を表し、LRQA の EiQ プラットフォーム内で見る事が可能です。サプライチェーンの ESG リスクにおける上位および下位それぞれ 5 地域の集計は監査数量に基づいています。また各リストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。

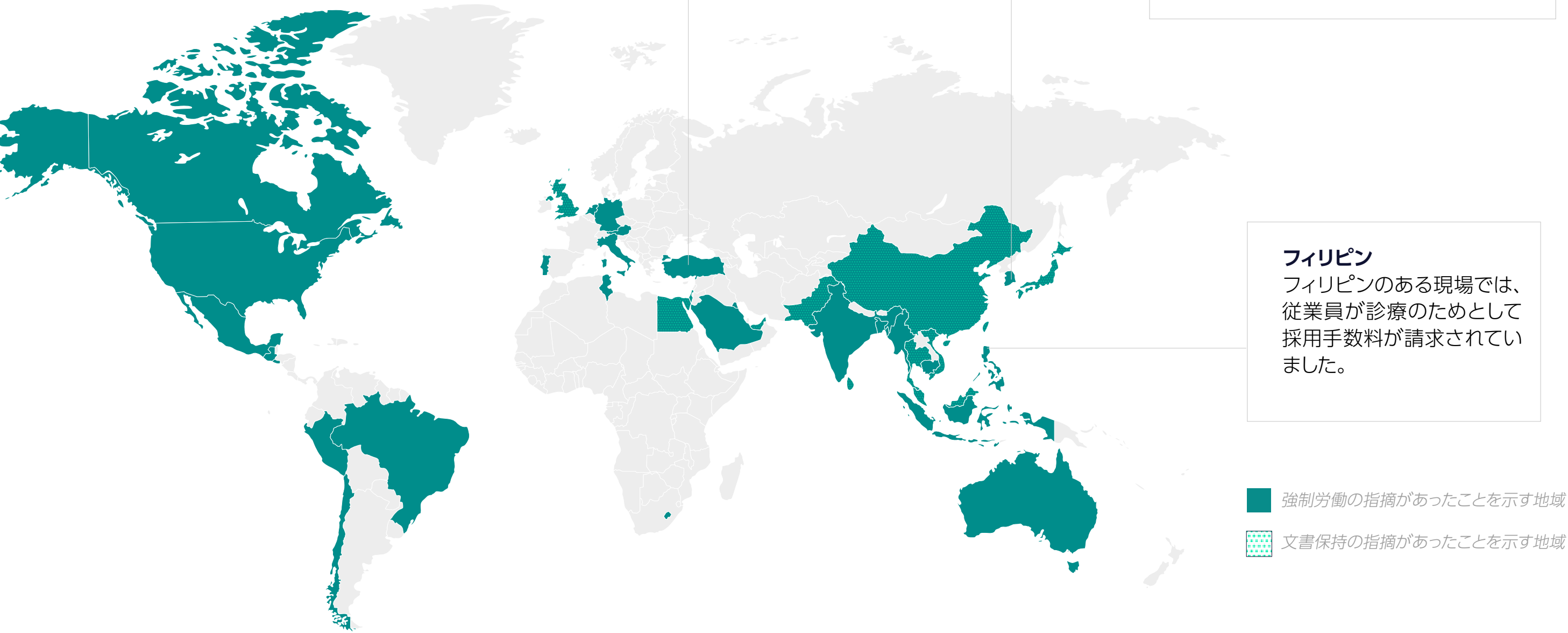
強制労働のリスク

EiQ のデータによると、強制労働関連の違反は 2023 年だけで少なくとも 40 の調達地域において明らかになっています。

強制労働の違反が見つかったこれらの市場の多くは外国人移住労働者を非常に多く受け入れており、よって強制労働違反に影響されるリスクが高くなります。こうした市場にはマレーシア、日本、英国、韓国があります。外国人移住労働者の人口が大きい市場は強制労働に関連してより高いリスクにさらされる状況になります。外国人移住労働者が人権侵害をより受けやすい可能性があるためです。彼らは複雑な採用プロセスや言葉の壁、現地法に対する知識不足に対応する中で違反行為に一層脆弱になると考えられます。外国人移住労働者は、就職斡旋、交通費、宿泊費など法外な手数料を要求する仲介業者や斡旋業者を通じて採用されることがあり、その結果、借金による束縛や雇用主への依存を余儀なくされる状況に追い込まれることがあります。この債務による束縛は、解雇や国外追放といった報復を恐れて、労働者が虐待を報告せず、支援を求めないという結果を招くことがよくあります。

外国人移住労働者をほとんど、あるいは全く抱えていない市場でも、時間外労働の強制や基本的自由の制限、採用手数料といった違反による強制労働のリスクに直面しています。こちらのマップは、2023 年に現場のアセスメントで強制労働関連の違反が指摘された地域を示しています。

強制労働のリスク 2023 年における違反の指摘



違法な文書保持

2024 年、LRQA のデータは、特定の生産拠点が労働者の書類を違法に保持していた国々を示しました。サプライチェーンにおける移民労働者の雇用、権利、福祉に関する重要な書類を隠匿または改ざんするこの行為は、人権基準および業界規制に違反し、サプライチェーンに関わる労働者および企業双方に重大なリスクをもたらします。

文書保持は、身元確認書類の保留によって起こり得ます。雇用主が移民労働者のパスポート、ビザ、その他の身元確認書類を没収または保留し、移動の自由や職場や国を出る能力を制限することがあります。この慣行は、労働者を搾取的な状況に事実上閉じ込めることになり、虐待や搾取に対する脆弱性を高める可能性があります。

このマップは昨年強制労働に関連する指摘事項が明らかになった地域や文書保持の違反が見つかった地域を明示しています。サプライチェーンの ESG リスクにおける上位地域および下位地域
強制労働のリスク：2023 年における違反の指摘

強制労働のリスク

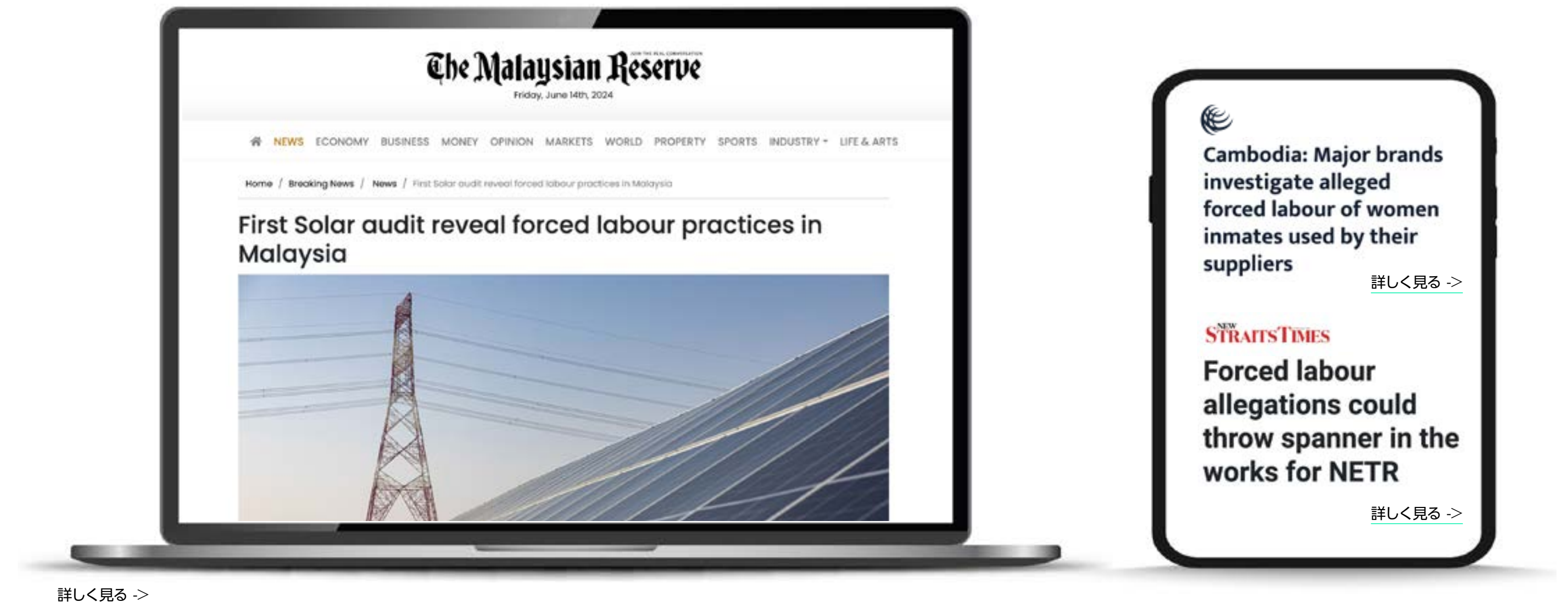
監査だけにとどまらず、敵対的メディア を通じて強制労働のリスクを特定

強制労働への調査にメディアの注目が高まり、多くのグローバルサプライチェーンがサプライヤーの不正行為に繋がっていることが露呈しています。監査の透明性や年次監査の間のタイムラグに伴う問題は、継続的なリスクの監視に対する課題を生み出しています。

LRQA の敵対的メディア・スクリーニングツール、EiQ センチネルはサプライチェーンに関する事象のデータベースを構築し、新しいサプライチェーンパートナーのスクリーニングに拡張性の高いソリューションを提供しています。センチネルは毎月 30 万件近いサプライチェーンパートナーを審査し、現地言語の情報源を利用して現場を見抜き、継続的なリスク監視を促進します。

2023 年は、1,450 件の強制労働に繋がる事件がセンチネル上で見つかりました。

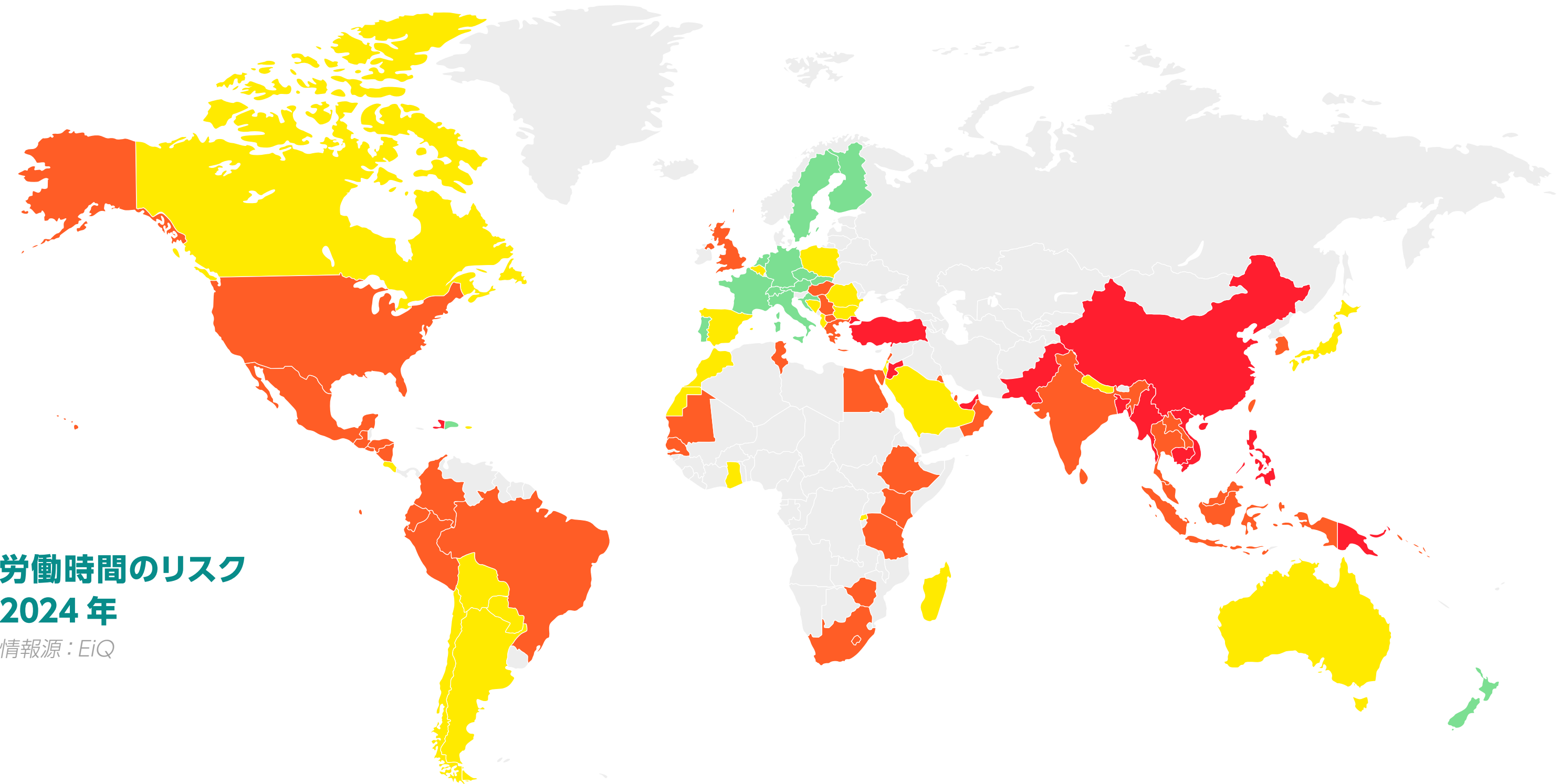
センチネルにより発見された強制労働の記事の例、2023 年



Q 監査ツールにとどまらず、EiQ センチネルなどはサプライヤーのリスクに対して必要なレベルの先見性をサポートします。また、責任ある調達を成功させる各種プログラムも現在のリスクを優先した上で台頭する問題に一定の先見性を有しており、強制労働のリスクが最も高い可能性のある地域への理解を深めます。

労働時間のリスク

労働時間指標は労働時間や休日に関連するリスクのレベルを反映します。この指標は現地の規制やクライアントの行動規範に従い、遵守違反の蔓延度に基づいて算出されています。違反例には過剰な週労働時間や月労働時間、不十分な休日数や休憩時間などがあります。



労働時間のリスク 2024 年

情報源：EiQ

下位評価の地域

地域	スコア
 中国	0.58
 バングラデシュ	1.07
 トルコ	1.71
 パキスタン	1.89
 フィリピン	1.99
 ベトナム	2.03
 カンボジア	2.37
 マレーシア	2.51
 スリランカ	2.65
 タイ	2.71

上位評価の地域

地域	スコア
 ドイツ	8.71
 ポルトガル	8.56
 イタリア	8.38
 フランス	8.25
 スペイン	6.89
 カナダ	6.67
 オーストラリア	6.44
 日本	6.22

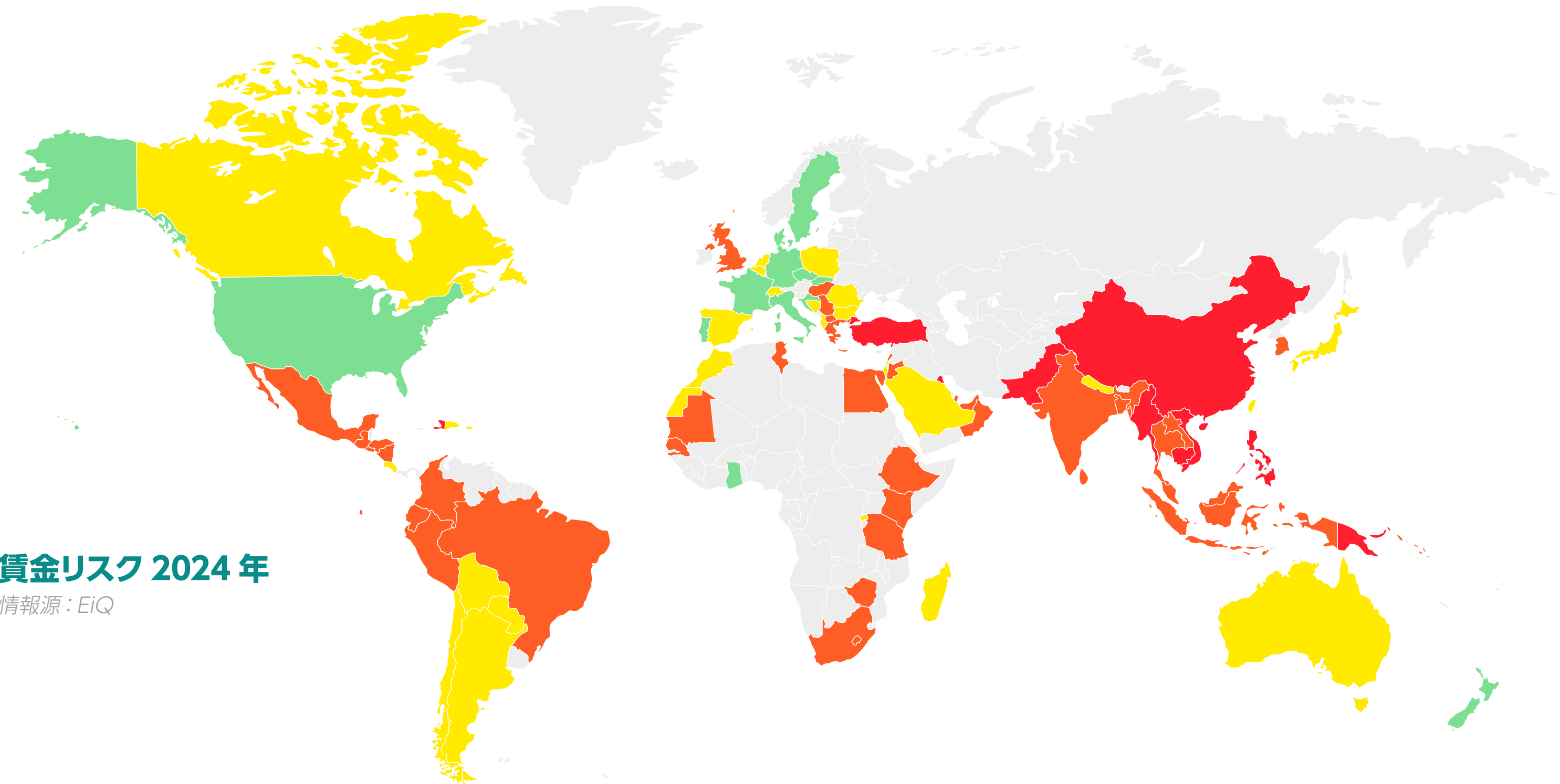
リスクの凡例

- 極めて高い (0 ～ 2.49)
- 高い (2.50 ～ 4.99)
- 平均的 (5.00 ～ 7.49)
- 低い (7.50 ～ 10)

LRQA の各ヒートマップはリスクデータ全体を表し、LRQA の EiQ プラットフォーム内で見る事が可能です。サプライチェーンの ESG リスクにおける上位および下位それぞれ 5 地域の集計は監査数量に基づいています。また各リストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。

賃金リスク

賃金リスクの指標は賃金や手当に関連するリスクレベルを反映します。この指標は最低賃金や時間外勤務手当、タイムリーな支払い、社会保険、休暇やその他手当に関連する違反の蔓延度に基づいて算出されています。



賃金リスク 2024 年
情報源：EiQ

下位評価の地域

地域	スコア
 中国	● 1.34
 トルコ	● 1.74
 パキスタン	● 1.97
 フィリピン	● 2.31
 ベトナム	● 2.44
 インドネシア	● 2.61
 バングラデシュ	● 2.72
 カンボジア	● 2.79
 インド	● 2.84
 スリランカ	● 2.86

上位評価の地域

地域	スコア
 ドイツ	● 9.53
 米国	● 8.57
 フランス	● 8.25
 イタリア	● 8.14
 ポルトガル	● 7.64
 スペイン	● 6.61
 japan	● 6.51
 オーストラリア	● 6.44
 台湾	● 6.33
 カナダ	● 6.25

リスクの凡例 ● 極めて高い (0 ～ 2.49) ● 高い (2.50 ～ 4.99) ● 平均的 (5.00 ～ 7.49) ● 低い (7.50 ～ 10)

LRQA の各ヒートマップはリスクデータ全体を表し、LRQA の EiQ プラットフォーム内で見る事が可能です。サプライチェーンの ESG リスクにおける上位および下位それぞれ 5 地域の集計は監査数量に基づいています。また各リストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。



賃金リスク

賃金リスク：労働者への支払いに関連する違反

強制労働の事例から得られた違法な利益は世界中で増加しており、ILO の最近のレポートによると 2014 年から 640 億ドルも増加しています。¹ 強制労働による年間利益は 2,300 億米ドル以上になり、ヨーロッパと中央アジアで違法な利益の割合が最も高く、約 840 億ドルを占めています。

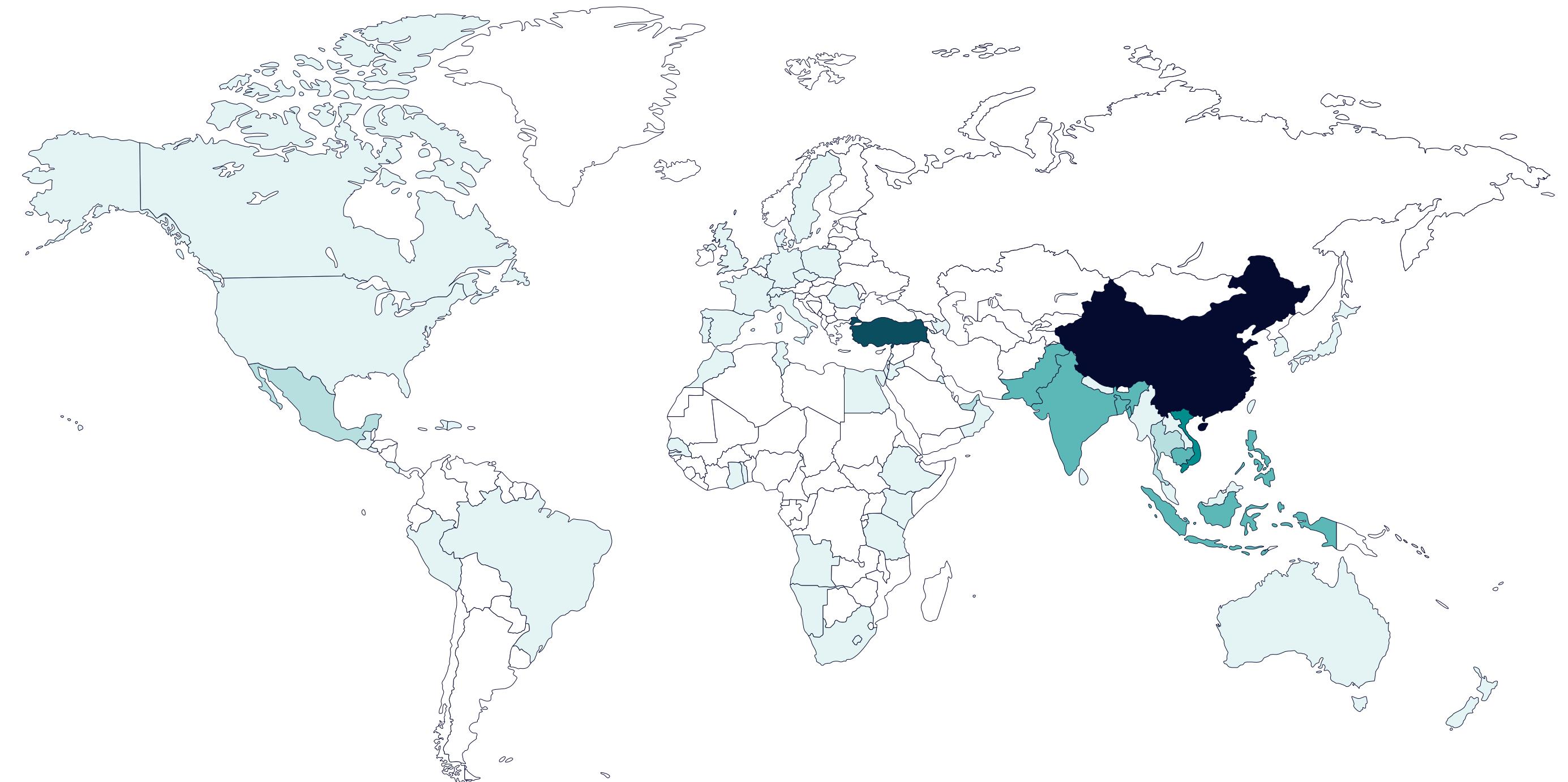
この数字は、強制労働の加担者らがその威圧的行為を通じて労働者から搾取した賃金や稼ぎを反映しています。

強制労働による違法な利益の総額は、ヨーロッパと中央アジアが最も高く、アジアと太平洋地域が 624 億米ドルでこれに続きます。さらに南北アメリカ大陸 (521 億米ドル)、アフリカ (198 億米ドル)、アラブ諸国 (180 億米ドル) と続きます。

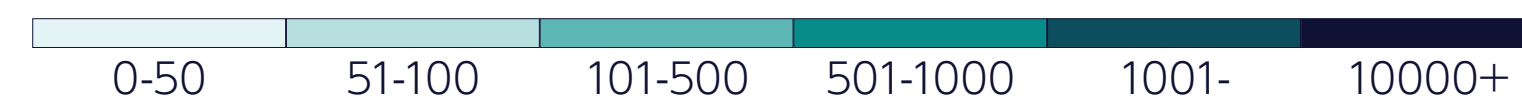
2024 年からの EiQ データでは、労働者の賃金に伴う違法な行為に関連した事例について類似の指摘事項が見つかりました。これらの指摘事項には支払いの遅延、合意した雇用条件よりも低い賃金、違法な控除に関連した違反などがありました。EiQ のデータによれば、去年は賃金問題に関係した指摘事項が 17,000 件以上明らかになっています。右のマップはこれらの指摘があった地域を明示しています。

1. ILO 報告書：利益と貧困：強制労働の経済第二版、ジュネーブ：ILO 事務局、2024 年

賃金の違反に関連する指摘、EiQ



指摘件数



人道的扱いのリスク： ハラスメントや虐待

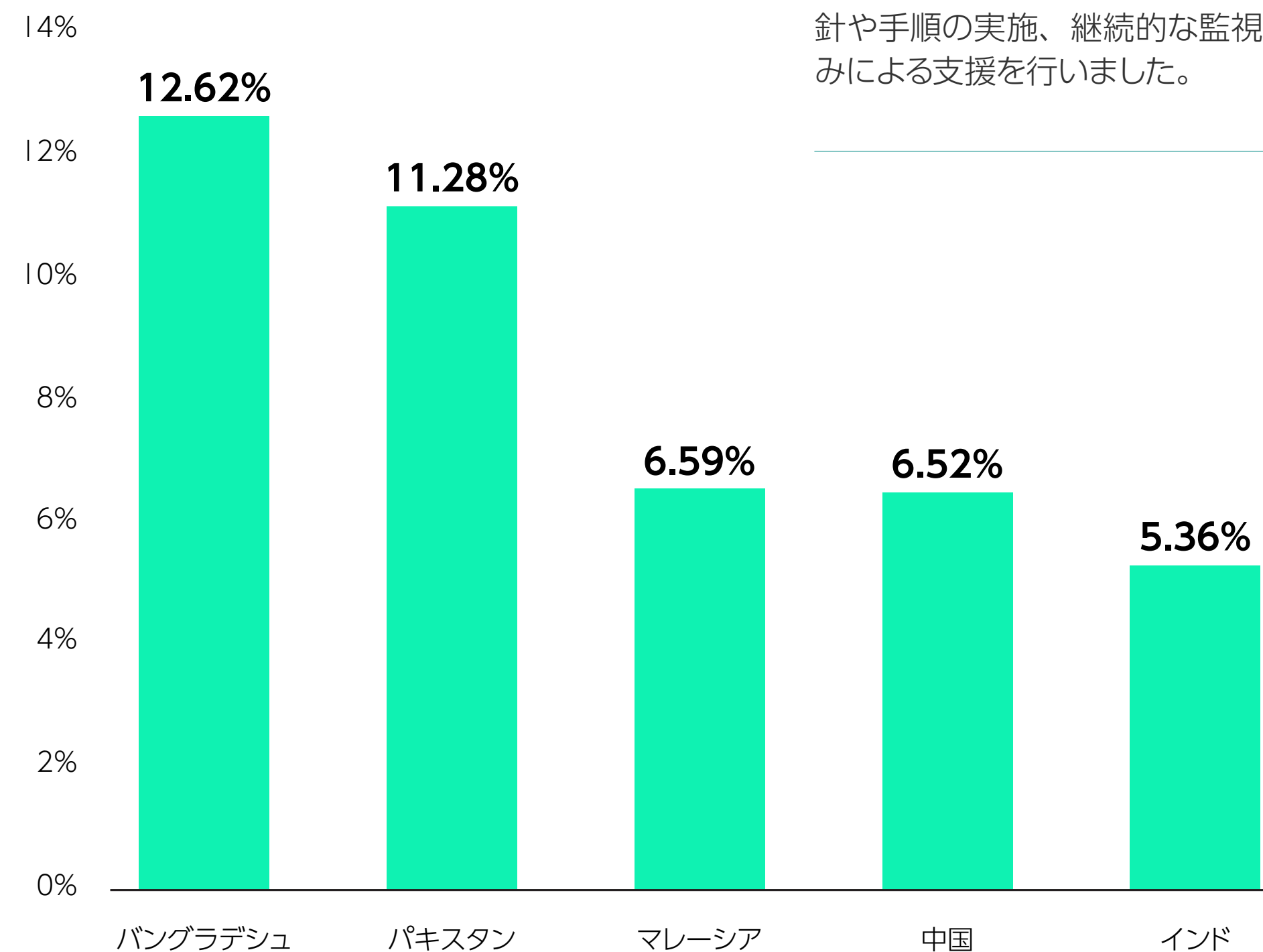
労働者の目を通して：ハラスメントや虐待は報告されている問題のなかでも上位を占めています

LRQA の苦情処理窓口は、バングラデシュ、中国、マレーシア、インドネシア、パキスタン、インドの労働者を対象としており、ハラスメントや虐待に関する問題が、過去 1 年間にあらゆる地域で報告された苦情の上位を占めていたことが明らかになりました。

苦情処理のメカニズムは企業にとって不可欠なフィードバックの仕組みとして機能します。人権や環境に対する潜在的もしくは実際の悪影響に関係する組織内の労働者らが懸念や苦情を提起できるからです。これによって企業はデューデリジェンス法や反現代奴隷法、関税および輸入管理法に基づく国内外の義務を果たしながら、同時に国連のビジネスと人権に関する指導原則（United Nations Guiding Principles : UNGPs）や国際的ベストプラクティスなどの国際的なサステナビリティ基準にも合わせることができます。

苦情処理メカニズムのケーススタディ

マレーシアのパーム油サプライヤーのある労働者は LRQA の苦情チャンネルに連絡して職場での身体的虐待を報告しました。さらなる調査に基づき、ヘルプラインのスタッフが CCTV カメラの導入や問題に関連する方針や手順の実施、継続的な監視プログラムの確立といった軽減の取り組みによる支援を行いました。



労働者より報告のあった苦情、LRQA

ハラスメントや虐待の苦情を報告する電話の割合：2023 年

環境リスク

この環境指標は事業体の業務から生じた環境関連の違反リスクの全体的レベルを反映します。評価は、大気放出や環境マネジメント、許可、廃棄物マネジメント、廃水などの環境サブカテゴリーに対する加重平均に基づいて算出されています。

環境の各指標を評価することは、企業に炭素排出量を管理するよう求めるサプライチェーンの ESG 関連規制を忠実に守る上で不可欠であり、これには以下のようなものがあります。



EU コーポレート・サステナビリティ・デューデリジェンス指令 (CSDDDD)



ドイツサプライチェーン・デューデリジェンス法



EU 炭素国境調整措置 (CBAM)



カリフォルニア上院法案 253：気候変動企業データ説明責任法



ニュージーランド金融部門（気候関連の情報開示およびその他の事項）修正法



EU タクソノミー規制



EU 森林破壊防止規則 (EUDR)

各規制と合わせて、環境の各指標はパリ合意*の目標に一致し、炭素排出量を削減するために意図された近年の各報告指令の順守をサポートします。こうした報告指令には次のようなものがあります。



EU 非財務情報開示指令



気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

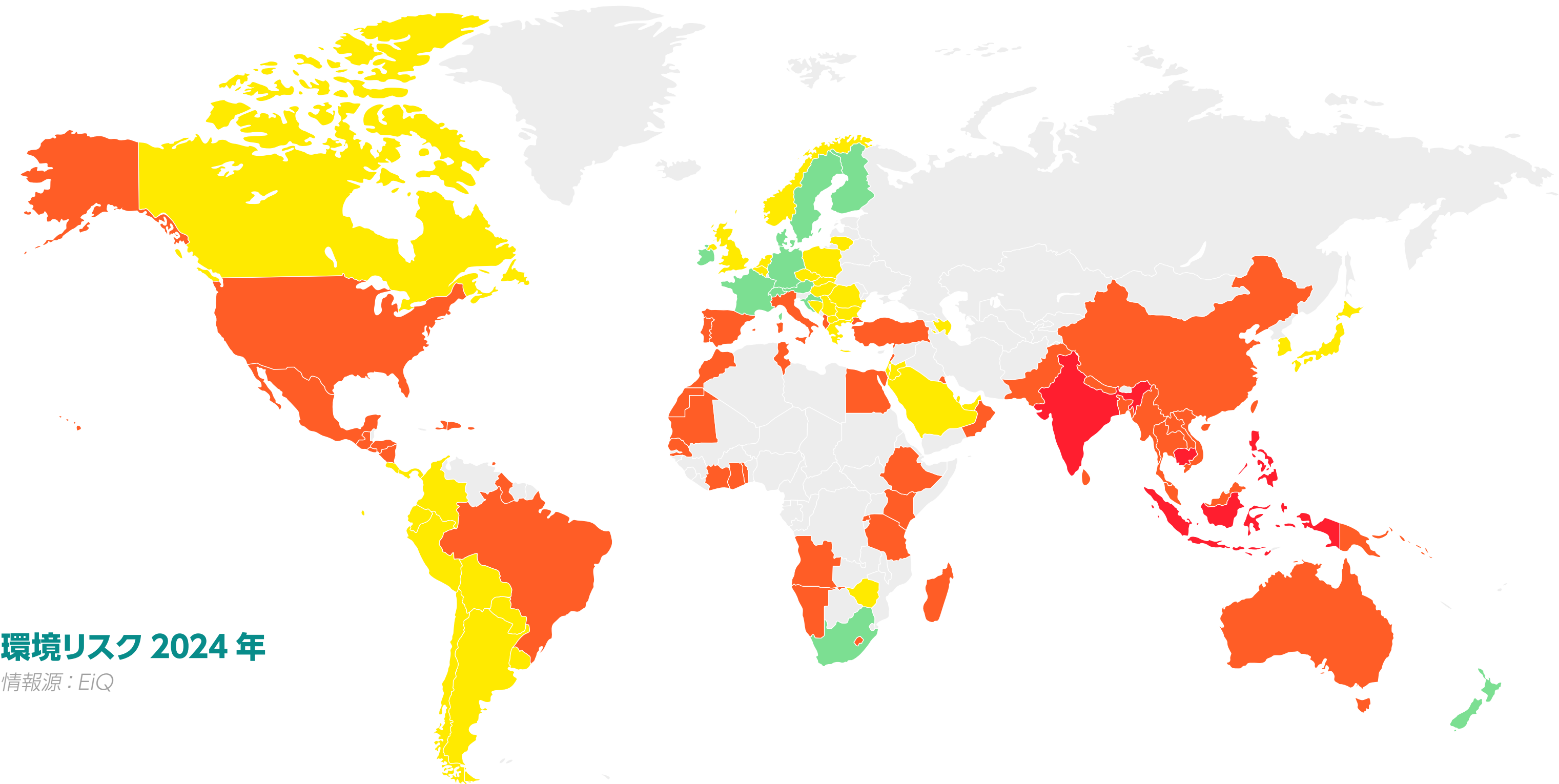


グローバルレポーティングイニシアチブ (GRI) スタンダード

環境の各指標はまた、持続可能な調達の取り組みやサプライチェーンのレジリエンス、排出控除量、廃水違反の削減にも寄与します。

* パリ合意は温度上昇を産業革命前の水準から 2℃未満に抑えることを目指した世界的イニシアチブです。

環境リスク



環境リスク 2024 年

情報源：EiQ

下位評価の地域

地域	スコア
 インドネシア	● 2.37
 カンボジア	● 2.49
 フィリピン	● 2.50
 インド	● 2.50
 トルコ	● 2.57
 バングラデシュ	● 2.62
 マレーシア	● 2.66
 メキシコ	● 2.68
 タイ	● 2.78
 パキスタン	● 2.79

上位評価の地域

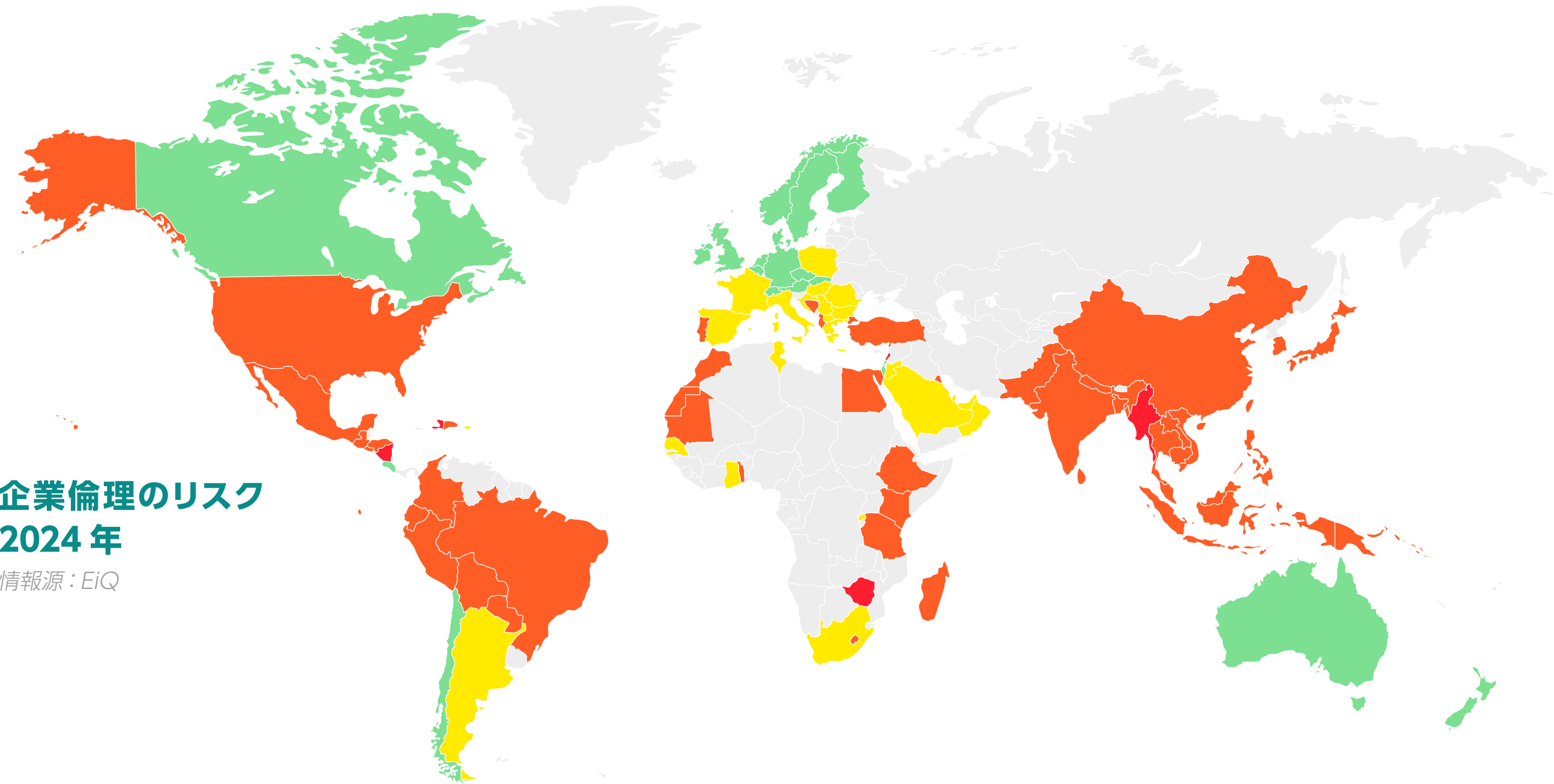
地域	スコア
 ドイツ	● 7.77
 フランス	● 7.72
 南アフリカ	● 7.56
 カナダ	● 7.33
 英国	● 7.12
 韓国	● 6.93
 日本	● 6.55

リスクの凡例 ● 極めて高い (0 ～ 2.49) ● 高い (2.50 ～ 4.99) ● 平均的 (5.00 ～ 7.49) ● 低い (7.50 ～ 10)

LRQA の各ヒートマップはリスクデータ全体を表し、LRQA の EiQ プラットフォーム内で見ることが可能です。サプライチェーンの ESG リスクにおける上位および下位それぞれ 5 地域の集計は監査数量に基づいています。また各リストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。

企業倫理のリスク

企業倫理の指標は、企業のインテグリティや透明性に関連するリスクの全体的レベルを反映します。企業倫理上で一般的に見られる監査違反には、文書改ざん、監査期間中の話の内容に関する労働者への指導、賄賂の試みなどがあります。透明性はサプライチェーンの業務に対して信頼できるデータを集め、真の視認性を得るのに欠かせない構成要素です。現場の透明性により、利害関係者らは労働条件や環境への影響、規制へのコンプライアンスといった要素など、自らのビジネスパートナーの ESG パフォーマンスを評価することができます。サプライチェーンの各拠点がこのレベルでオープンになると、現場の改善を推進するためのよりよい協力や利害関係者の関与が促され、必要に応じて能力構築の手段を効果的に実施することが可能になります。



下位評価の地域

地域	スコア
 パキスタン	2.59
 中国	2.66
 マレーシア	2.71
 タイ	2.78
 メキシコ	2.79
 バングラデシュ	2.86
 インド	2.98
 ポルトガル	2.98
 トルコ	3.00
 ブラジル	3.07

上位評価の地域

地域	スコア
 オーストラリア	8.97
 ドイツ	8.60
 カナダ	8.34
 南アフリカ	7.35
 フランス	6.60
 スペイン	6.16
 イタリア	5.63

リスクの凡例 ● 極めて高い (0 ～ 2.49) ● 高い (2.50 ～ 4.99) ● 平均的 (5.00 ～ 7.49) ● 低い (7.50 ～ 10)

LRQA の各ヒートマップはリスクデータ全体を表し、LRQA の EiQ プラットフォーム内で見ることが可能です。サプライチェーンの ESG リスクにおける上位および下位それぞれ 5 地域の集計は監査数量に基づいています。また各リストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。

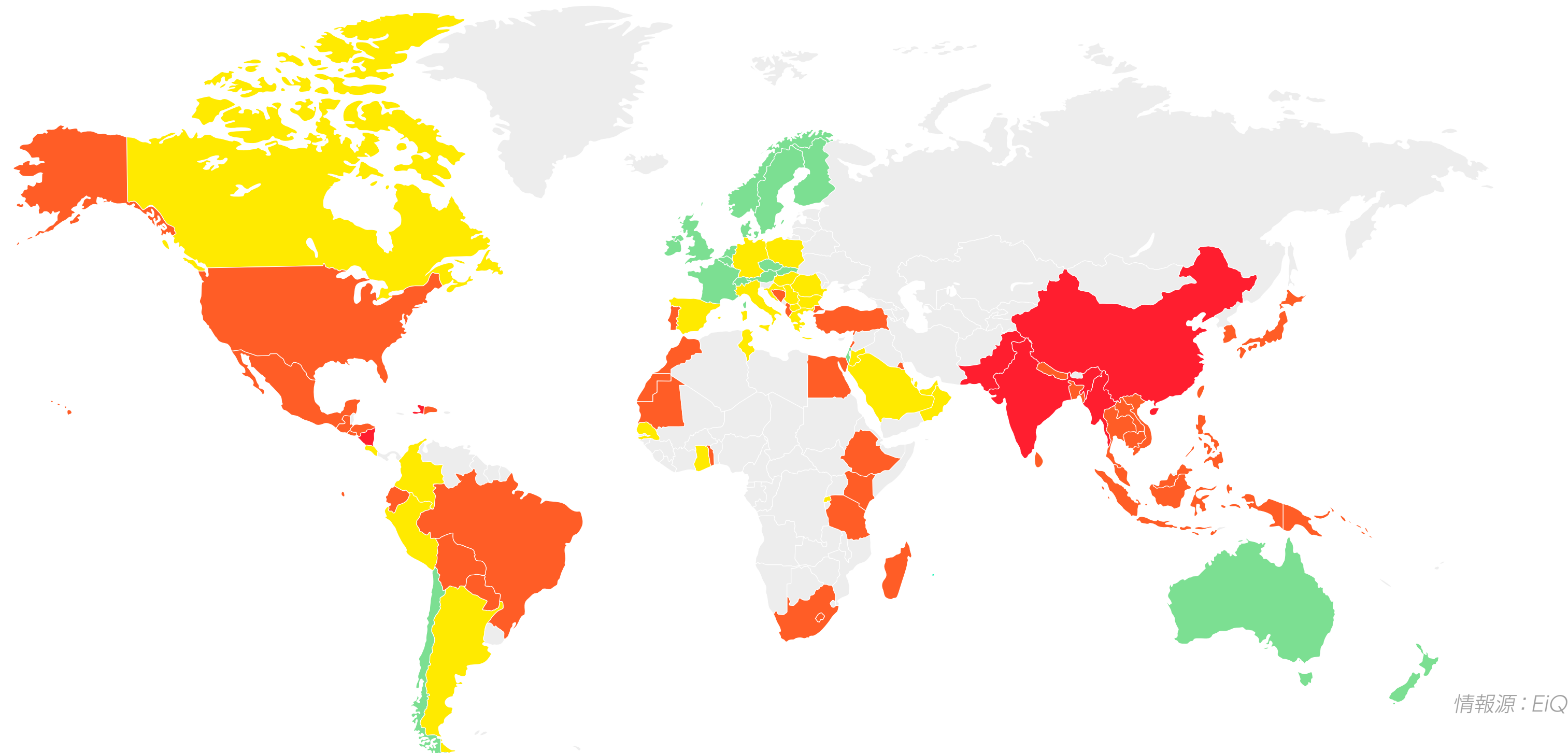
企業倫理のリスク

透明性の低さは信頼できるリスクデータへのアクセスに影響を及ぼします

サプライヤーの間の透明性レベルはリスク軽減プログラムの成功を左右する可能性があります。このリスクカテゴリーは監査基準が現場の状況を反映しているかどうかの重要な指標です。監査の透明性は、情報へのアクセスレベルや監査プロセスの中で監査員に提示される情報の正確性を示します。

透明性のレベルは、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの際にロックダウンや不景気、レイオフ、出荷の遅延が現場にとって複雑な問題を生み出したことから、世界中で低下しました。工場は生産を維持し、サプライチェーンの混乱に対応するために残業をしていました。サイトへのアクセスが低くなり、オンラインおよび自己評価では、サイトからの過剰労働時間や労働基準違反の虚偽の申告が許容されたため、透明性レベルが低下しました。各国がパンデミックへの適応を習得するにつれ、イタリア、メキシコ、インドネシアなど多くの地域で透明性は大幅に改善しました。しかし、中国、インド、パキスタンなどの大規模な市場では、依然として問題のある透明性が示されています。

世界の透明性リスクのヒートマップ、EiQ



情報源：EiQ

中国は 2024 年も引き続いて最も透明性の低い主要調達市場となっています。昨年中国で行われた全ての監査のうち透明性があると分類されたのは 55% だけでした。インドやパキスタン、ミャンマーも透明性の低さに関して極めて高いリスクレベルを示し、米国やメキシコ、バングラデシュといった国々はこの 1 年で透明性のレベルが悪化していました。日本とカナダは、以前は透明性のカテゴリーで低リスクとされていましたが、2024 年には透明性のレベルが大幅に低下しました。

監査の透明性が低いと ESG リスクにさらされることがより多くなります。リスクの高い国々のサプライヤーがデータの改ざんや隠蔽に携わった場合、企業が意図せずして高リスクの活動による生産を行う可能性は大幅に高まります。パンデミックは収まり従来の監査技術に戻ったことから透明性は改善しているとはいえ、途上地域における透明性レベルの低さは、責任ある調達プログラムにとって支障となっています。

これに対処するためには、監査員が監査の不正行為を特定するための訓練を受けている堅牢な基準の使用を企業が優先する必要があります。また、サプライチェーン業務全体における透明性を向上させるには、監査以外の対策も必要となります。これには、敵対的なメディアスキャンや、労働者調査の統合による、より包括的なサイトの見解の取得などが含まれます。サプライヤーのトレーニングモジュールを実施し、期待される事柄や方針に関して現場を訓練することも、現場全体の透明性向上を促せる可能性があります。

マネジメントシステムのリスク

マネジメントシステムの評価はサプライチェーンのリスク評価にとって妥当です。これによってサプライチェーン内におけるガバナンスの有効性や業務慣行、コンプライアンスの仕組みに対する洞察がもたらされます。マネジメントシステムは責任ある企業慣行を推進し、規制や業界基準の遵守を保証し、ESG リスクを効果的に管理する上で基礎的な役割を果たします。

マネジメントシステムの指標は管理面の能力や実践の不十分さに関して集計したリスク値を反映します。この指標は賃金や労働時間に関する文書化活動、買い手の許可がない下請負発注、許可証や契約書の有無に関する不適合事例に基づいて算出されています。

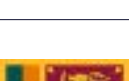
マネジメントシステムリスクに関連するゼロトレランス調査の例としては、無許可の下請け契約や、労働契約、賃金、労働時間、健康および安全に関する規定、環境許可証に関する記録の紛失や不備など、文書化の不備が挙げられます。

マネジメントシステムを評価することで、企業は労働者やコミュニティ、環境にリスクをもたらす可能性のあるギャップや弱点、不適合領域を特定することができます。例えば、許可証や契約書の不備は法制上のリスクや環境賠償責任、あるいはサプライチェーンの混乱を示唆している場合があります。

マネジメントシステムの
リスク 2024 年

情報源：EiQ

下位評価の地域

地域	スコア
 メキシコ	2.85
 マレーシア	2.93
 トルコ	3.03
 パキスタン	3.25
 タイ	3.33
 インドネシア	3.39
 インド	3.64
 バングラデシュ	3.73
 スリランカ	3.76
 カンボジア	3.89

上位評価の地域

地域	スコア
 ドイツ	6.90
 英国	6.84
 カナダ	6.81
 スペイン	6.40
 フランス	6.19
 米国	6.16
 オーストラリア	5.93
 ポルトガル	5.67
 南アフリカ	5.29
 韓国	5.18

リスクの凡例

極めて高い
(0 ～ 2.49)

高い
(2.50 ～ 4.99)

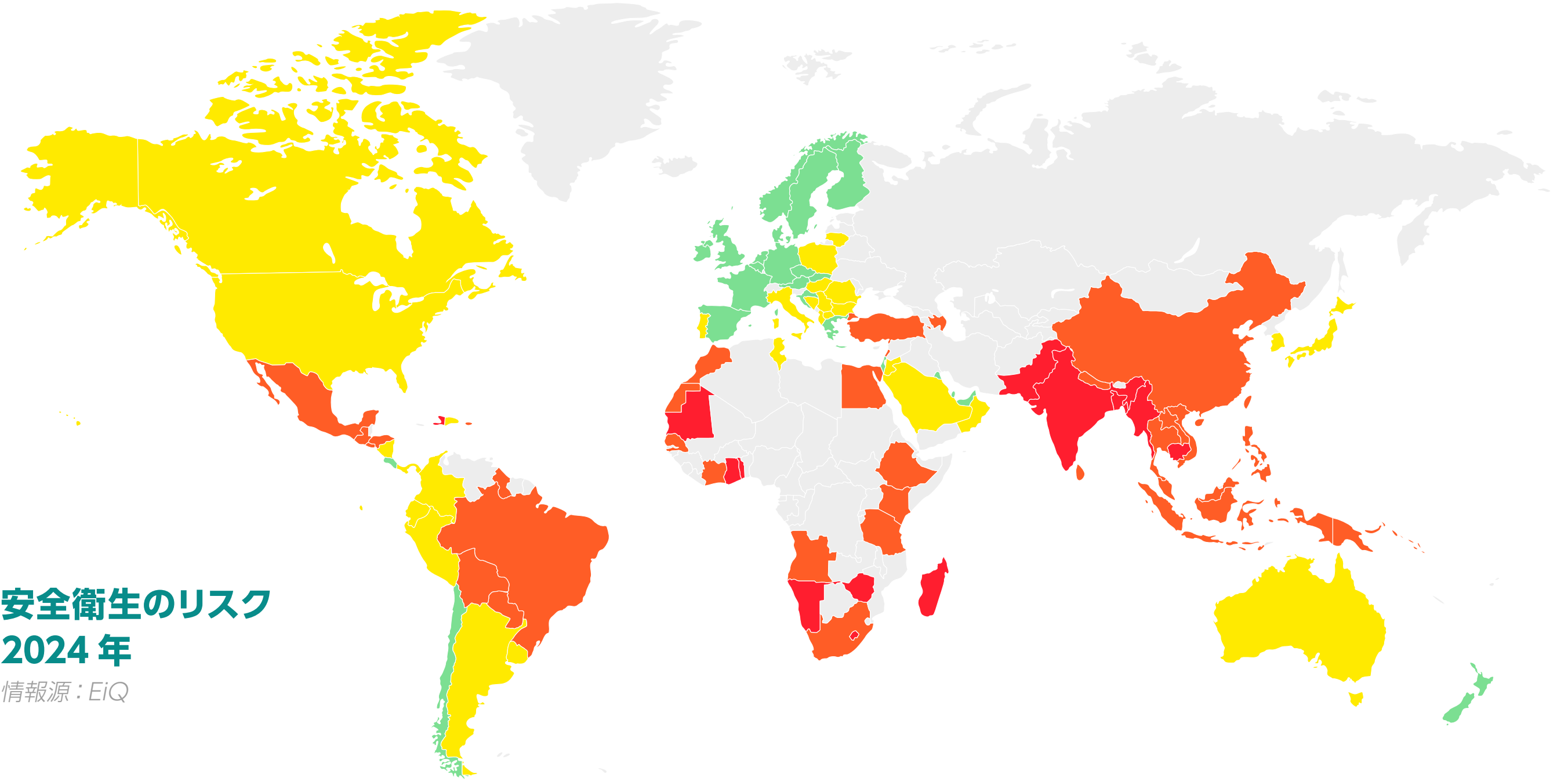
平均的
(5.00 ～ 7.49)

低い
(7.50 ～ 10)

LRQA の各ヒートマップはリスクデータ全体を表し、LRQA の EiQ プラットフォーム内で見る事が可能です。サプライチェーンの ESG リスクにおける上位および下位それぞれ 5 地域の集計は監査数量に基づいています。また各リストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。

安全衛生

安全衛生の指標は、職場における労働者の安全に関連したリスクのサブ指標を集計したものを反映します。この指標は職場や寮／食堂における建物の安全性や防火性、負傷、機械の安全性、保健衛生といった安全衛生のサブ指標の加重平均に基づいて算出されています。またこの指標は、職場における感染症やウイルスの大流行のリスクも盛り込んでいます。安全衛生指標の評価は、リスクの軽減プロセスや一切容認しない違反の特定をサポートします。



下位評価の地域

地域	スコア
 パキスタン	● 2.13
 バングラデシュ	● 2.30
 インド	● 2.48
 カンボジア	● 2.50
 フィリピン	● 2.83
 インドネシア	● 3.04
 タイ	● 3.86
 スリランカ	● 3.86
 トルコ	● 3.91
 マレーシア	● 4.00

上位評価の地域

地域	スコア
 フランス	● 7.98
 ドイツ	● 7.77
 スペイン	● 7.68
 カナダ	● 7.02
 オーストラリア	● 6.92
 ポルトガル	● 6.47
 イタリア	● 5.83
 米国	● 5.62
 韓国	● 5.30

リスクの凡例 ● 極めて高い (0 ～ 2.49) ● 高い (2.50 ～ 4.99) ● 平均的 (5.00 ～ 7.49) ● 低い (7.50 ～ 10)

LRQA の各ヒートマップはリスクデータ全体を表し、LRQA の EiQ プラットフォーム内で見ることが可能です。サプライチェーンの ESG リスクにおける上位および下位それぞれ 5 地域の集計は監査数量に基づいています。また各リストは行われた現場監査件数が最も多かった領域から抽出しました。

安全衛生のリスク

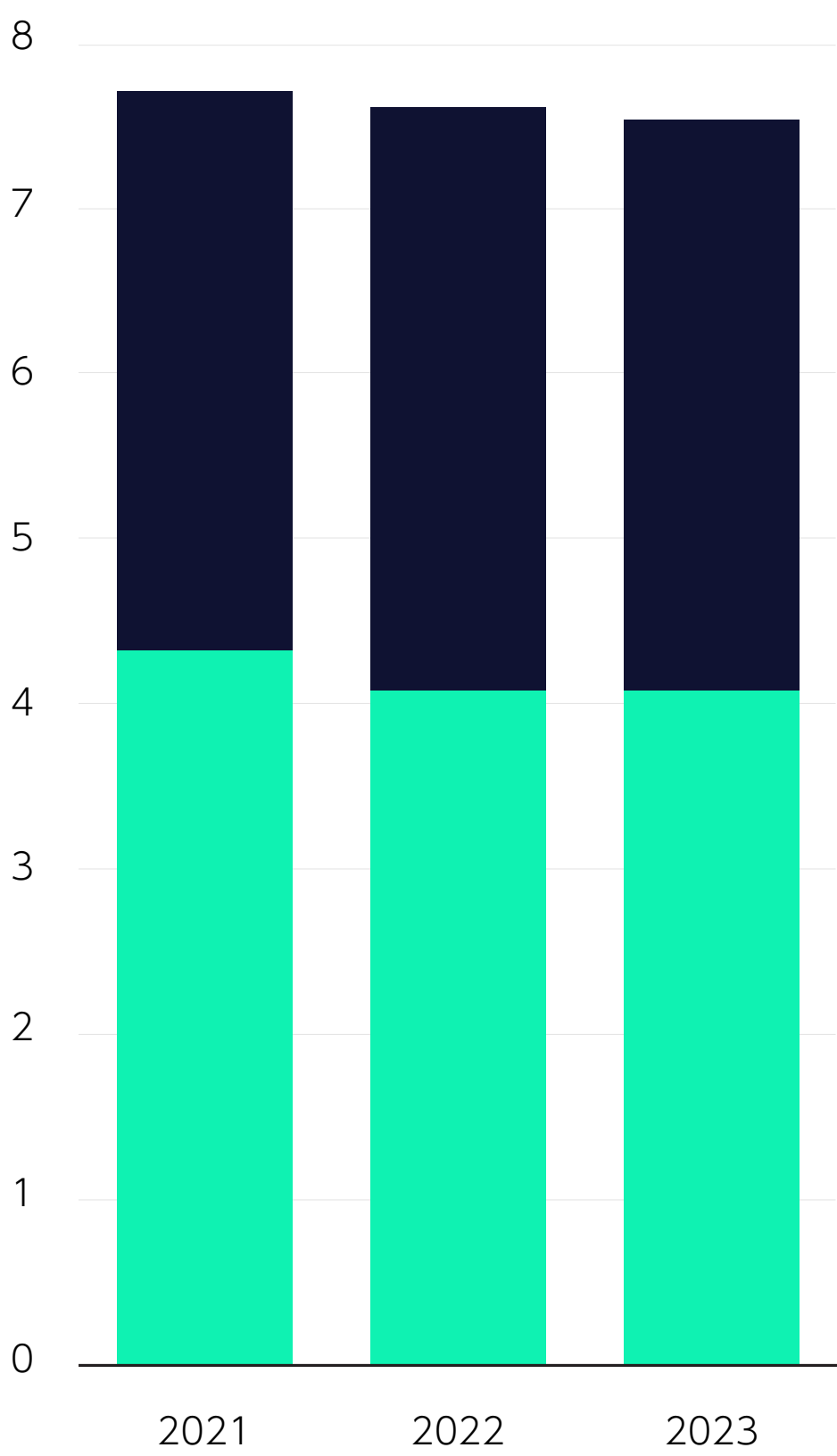
安全衛生上の違反は現在、監査の中で発見される全ての不適合の半分近くを占めています。安全衛生上の違反は徐々に増加しており、明らかになった上位に挙がる違反は機械の安全性、個人保護具 (PPE) の使用、および化学物質の漏出からの保護に関連しています。

上位に挙がる安全衛生上の違反 (2023 ~ 2024 年)

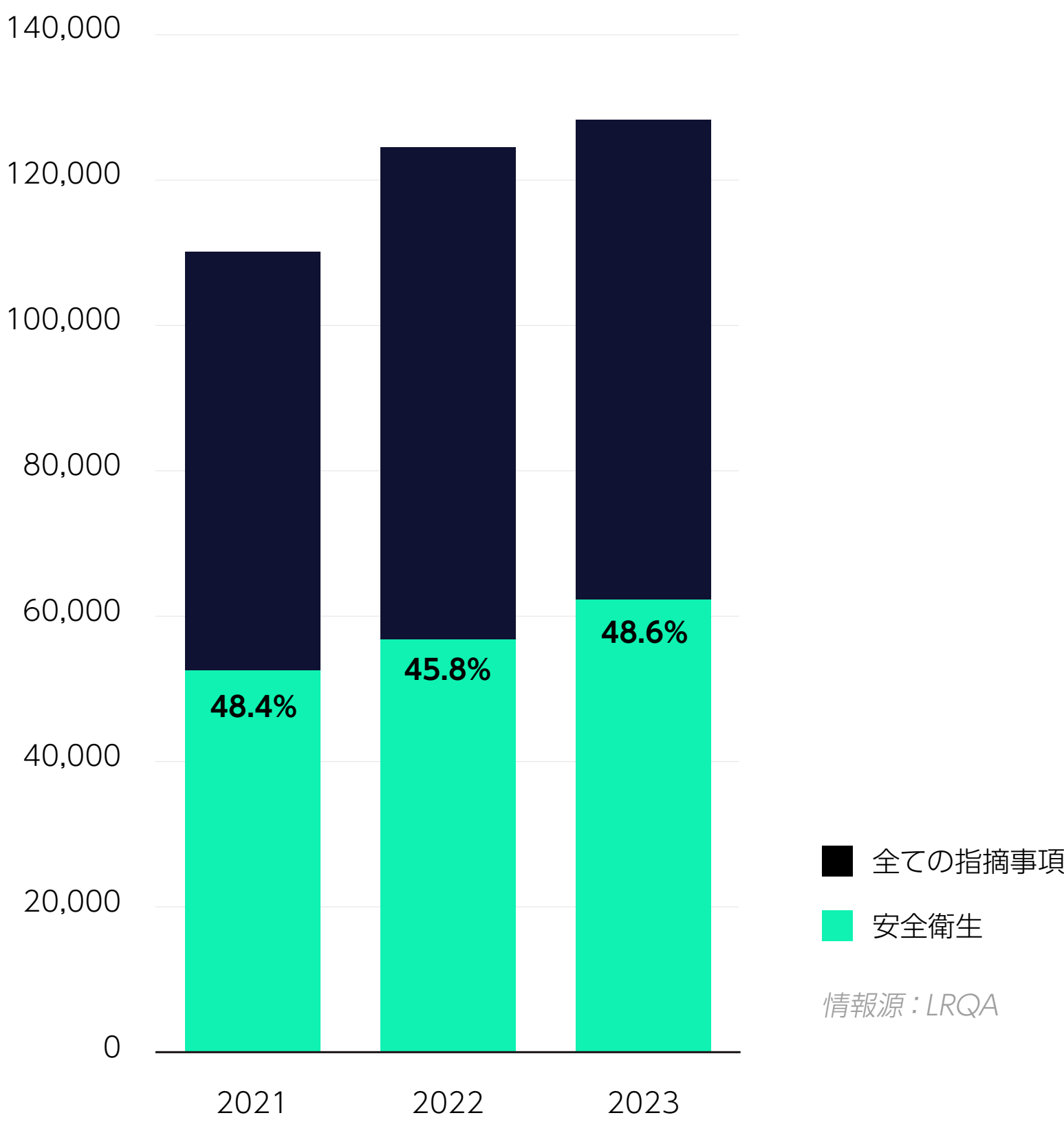
1	機械のガード
2	PPE—誤った使用／監視不足
3	化学物質の漏出からの保護不十分
4	職業上の危険
5	規制当局の承認 (建物の安全性)
6	ラベル／標識 (化学物質や有害物質)
7	避難経路—遮断もしくは妨害



監査あたりの指摘事項



年間指摘総数



情報源: LRQA

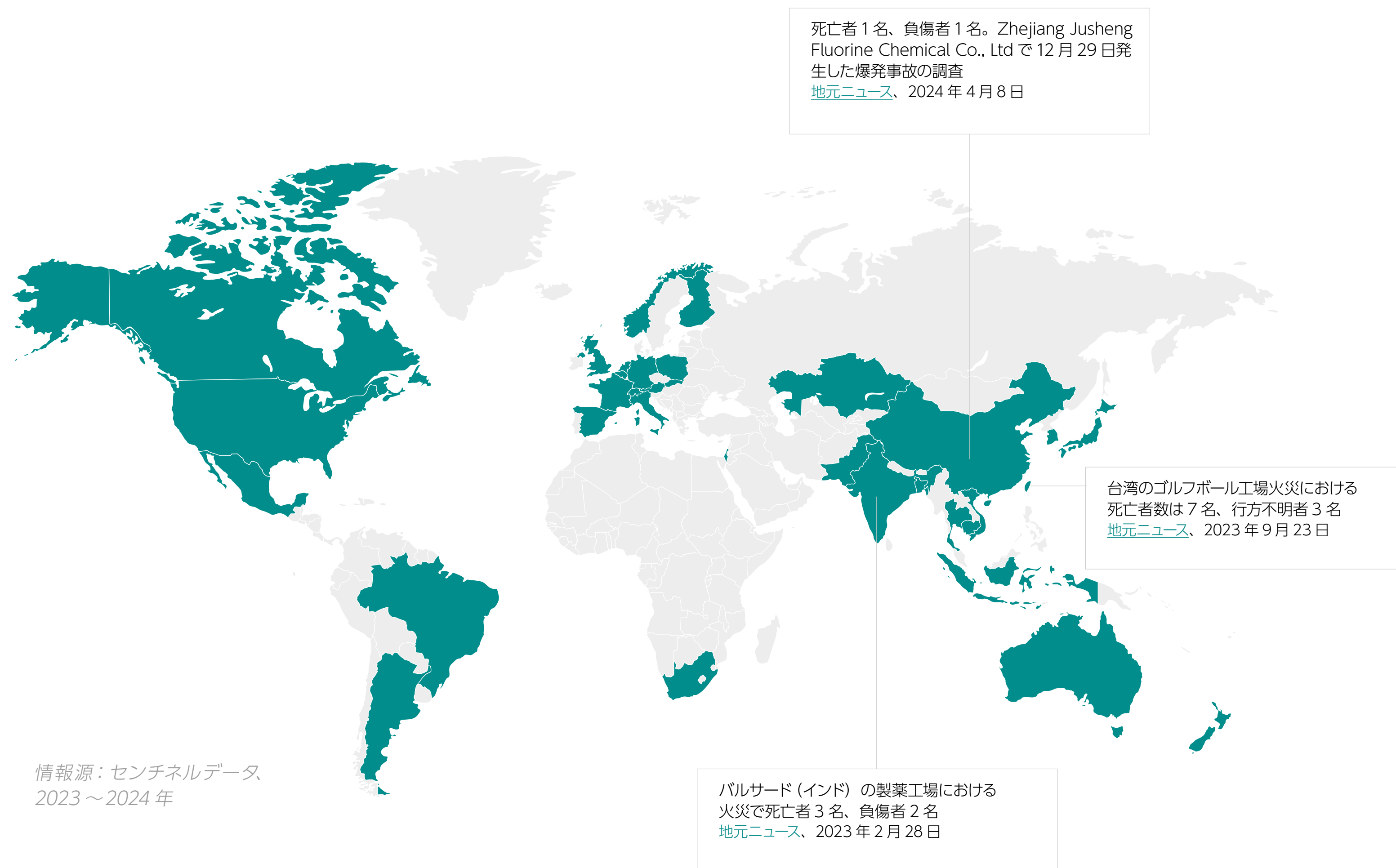
安全衛生のリスク

2013 年にバングラデシュで衣料品工場が崩壊し、1,100 人以上の労働者が亡くなったラナ・プラザの大惨事のような悲劇を通じて、安全ではない労働条件がもたらす影響を我々は見てきました。こうしたことから、世界中で労働条件改善への取り組みに火がつけましたが、この問題は根強く残っています。国際労働機関 (ILO) によると、安全ではない労働条件のために毎年何百万人もの労働者が依然として亡くなっているのです。

EiQ センチネルという LRQA のツールは 2023 年と 2024 年だけで 34 カ国にわたり、いくつかの死亡事故も含めて 300 件を超える火災事故を特定しました。火災事故や致命傷は標準的監査ではめったに報告されず、現場の安全衛生上のリスクを適切に評価するため、監査にとどまらない手段の必要性が浮き彫りになっています。

安全衛生の最優先化は労働者の基本的人権を守ります。安全ではない労働条件は負傷や疾病、不慮の死に繋がる可能性があります。安全な雇用に対する労働者の権利を侵害します。企業は自らの業務が従業員を害することのないよう、また国際規格やしばしば規制上の要件も遵守しているよう保証する倫理的義務があります。

情報源：センチネルデータ、
2023～2024 年



国別フォーカス 問題のあるリスク傾向を示す 主要市場

世界的なリスク傾向全般を通して進展するダイナミクスを概説しましたが、その中で、LRQA の分析から昨年大きく悪化する傾向を示した主要調達市場をいくつか特定しました。スリランカ、トルコ、タイなど、グローバルサプライチェーンで重要な役割を果たしているこれらの市場では、ESG 関連リスクが著しく増加しており、これらの市場で事業を展開する企業には、さらなるデューデリジェンスが求められています。

特に懸念されるのは労働関連のカテゴリーにおける傾向です。後に概説する地域では、労働違反が急増してきており、その一部は強制労働や児童労働、不適切な労働条件に関連しています。これらの問題は深刻な倫理的および法的課題を呈するのみならず、サプライチェーンのサステナビリティや安定性を脅かします。リスク評価レポートの本セクションではこうした地域とその展開に焦点を当て、責任ある調達の判断やリスク軽減戦略についてより的確な情報を伝えていきます。

問題のあるリスク 傾向を示す 主要市場

フィリピン

フィリピンは電子機器製造の主要ハブで、半導体や電子製品のグローバルサプライチェーンに寄与しています。この国はまたココナッツ製品やその他農産物の一大生産輸出国でもあり、さらにアパレル産業でも役割を拡大させています。

この1年でフィリピンは、強制労働違反や人道的扱いのリスクが高まるなど、労働の各カテゴリーにおいて悪化する傾向を示しました。

フィリピンの労働リスク			
リスク指標	2023	2024	対前年比推移
労働	● 2.90	● 2.79	▼ -3.92%
児童労働	● 4.71	● 4.89	▲ +3.76%
強制労働	● 2.48	● 2.44	▼ -1.61%
結社の自由	● 1.51	● 1.67	▲ +10.17%
人道的扱い	● 2.57	● 2.46	▼ -4.07%
賃金	● 2.43	● 2.31	▼ -4.75%
労働時間	● 1.97	● 1.99	▲ +1.15%

リスクに関する洞察

フィリピンは国内で ESG リスクに対応する際、多くの課題に直面します。労働力の相当な割合が非正規雇用で、法的保護や福利厚生がなく、労働者は搾取されやすい状況にあります。また、フィリピンは外国人出稼ぎ労働者の最大の出身国のひとつでもあります。同国政府によると、過去 40 年間に 200 万人以上のフィリピン人が 100 か国以上に移住しています。

マンゴーやバナナ、パイナップルといったフィリピンの主要輸出品は、児童労働のリスク影響について米国労働省が警告を出していますが、EiQ データによると同国の児童労働リスクは昨年も依然として高いままです。

フィリピンは強制労働のリスク影響も極めて高いレベルを示しており、労働者は採用手数料や人道的扱いの違反といった脆弱性に直面しています。

フィリピンの主要輸出品

- 電子機器
- 機械
- 農産物（主要輸出品はココナッツ製品、バナナ、パイナップルなど）
- 衣料品および繊維製品
- 銅および鉱物

問題のあるリスク 傾向を示す 主要市場

スリランカ

茶や衣料および繊維製品、ゴム、農産物の主要輸出国であるスリランカは、この1年でほぼ全ての労働カテゴリーにおいて大幅な悪化を示しました。監査データによれば、この国はほぼ全ての労働カテゴリーにおいて2023年よりも違反リスクが高まっています。

リスクに関する洞察

2023年の複数メディアによるレポートから、スリランカの企業は労働や人権に関する違反が明るみになっています。賃金の問題は、労働者に対する賃金支払いの遅延や支払い停止の報告などが繰り返し問題となっていました。¹ EiQのデータによると、スリランカは2023年よりも2024年では賃金に関する問題のリスクが30%以上高くなっていました。

スリランカは児童労働違反に関するリスクも昨年大幅に高くなりました。2022年米国労働省のレポートによると、スリランカの子供達は家庭内労働の強制や商業としての性的搾取といった最悪の児童労働形態にさらされるとのことです。²

スリランカのESGリスクの影響増に寄与している要因は、その経済的不安定性や市民の暴動、規制の枠組みの弱まりです。米国労働省はこの国が軽減に向けた取り組みの強化にある程度の進展が見られたとした一方で、同省の調査からはこの国のリソース不足が各当局による適切な調査やアセスメント実行の妨げになっていることが明らかになりました。

スリランカの労働リスク			
リスク指標	2023	2024	対前年比推移
労働	● 4.51	● 3.31	▼ -26.49%
児童労働	● 7.54	● 4.85	▼ -35.68%
強制労働	● 4.77	● 3.48	▼ -26.99%
結社の自由	● 2.83	● 2.18	▼ -23.09%
人道的扱い	● 4.73	● 3.60	▼ -23.09%
賃金	● 4.26	● 2.86	▼ -32.94%
労働時間	● 2.38	● 2.65	▲ +11.37%

スリランカは米国やインド、中国といった主要市場の供給国です。この国の戦略的立地や欧州連合および米国との貿易協定はアパレル部門の外国投資家にとって魅力となっています。

スリランカの主要輸出品

- 衣料品および繊維製品
- 茶
- ゴムおよびゴム製品
- 貴石および半貴石
- 電子機器
- 海産物

¹ Business and Human Rights Resource Centre, “Apparel SMEs in grave crisis”, 29 Jan 2023.

² 米国 Department of Labor, 2022 Findings on the Worst Forms of Child Labor.

問題のあるリスク 傾向を示す 主要市場



トルコ

アパレル産業において重要な役割を果たしているトルコは、賃金、労働時間、児童労働に関する違反のリスクが高いことが示されました。EiQ のデータによると、2023 年には同国で強制労働違反も検出されており、労働者からの斡旋料や賃金の未払いも発覚しています。

トルコは、様々な業界の市場に供給しており、中でもアパレル部門は最も重要なもののひとつです。トルコは、繊維製品、衣料品、皮革製品の生産で知られています。この国は近代インフラを擁し、ヨーロッパとアジア、中東の間の戦略的チャネルとして機能しています。トルコはまた、自動車部品や機械、電子機器、農産物の主要生産輸出国でもあり、グローバルサプライチェーンにおけるその役割を一段と強固なものにしつつあります。その多彩な製造基盤や輸出本位の経済から、トルコは世界中の様々なサプライチェーンにおいて重要な役割を果たす存在となっています。

トルコの労働リスク			
リスク指標	2023	2024	対前年比推移
労働	● 3.18	● 3.02	▼ 5.10%
児童労働	● 4.72	● 4.64	▼ 1.72%
強制労働	● 3.35	● 3.35	▼ 0.00%
結社の自由	● 1.70	● 1.70	▼ 0.00%
人道的扱い	● 2.66	● 2.67	▲ 0.55%
賃金	● 2.10	● 1.74	▼ 16.91%
労働時間	● 1.79	● 1.71	▼ 4.53%

リスクに関する洞察

トルコは劣悪な労働条件や不十分な賃金、労働者の団結権および団体交渉権の制限といった問題を含めた、労働権の違反に関する批判に直面しています。これらの違反は特に繊維製品や農業、製造といった部門で蔓延しています。国際人権団体 Walk Free の 2023 年世界奴隷指標によると、トルコはヨーロッパおよび中央アジアの中で現代奴隷が最も蔓延する国の一つに特定されています。¹

トルコはその地政学的立地から、紛争や難民危機にさらされ、これが人権侵害や強制退去、社会的緊張に繋がっています。移民労働者や難民、国内避難民などの脆弱な人々は、適切な保護や安全対策がなければ、搾取や虐待のリスクが高まります。トルコはシリア難民やその他強制退去となった移民を何百万人と抱えています。この国の政治的不安定性はもとより執行上の課題が人権侵害という違反リスクに寄与しています。

トルコの主要輸出品

- 繊維製品および衣料品
- 自動車製品
- 化学薬品
- 食品および農産物
- 金属および金属製品
- 電子機器

1 Walk Free 2023、世界奴隷指標 2023 年、Minderoo Foundation



問題のあるリスク 傾向を示す 主要市場



タイ

工業製品や農産物の主要輸出国であるタイは、主な労働指標においてリスクの上昇を示したのみならず、重大な安全衛生上の指標にわたっても悪化傾向を示しました。タイは安全衛生全般の違反のみならず、負傷や機械の安全性、緊急避難に関連する違反においてもリスクが高まりました。

タイの労働リスク			
リスク指標	2023	2024	対前年比推移
労働	● 3.28	● 3.24	▼ 1.37%
児童労働	● 5.91	● 4.96	▼ 15.98%
強制労働	● 2.24	● 2.91	▲ 30.01%
結社の自由	● 1.34	● 1.89	▲ 41.00%
人道的扱い	● 2.77	● 2.70	▼ 2.45%
賃金	● 3.49	● 3.30	▼ 5.33%
労働時間	● 2.44	● 2.71	▲ 11.44%

リスクに関する洞察

タイは農業や漁業、製造業、建設業といった様々な業界で強制労働や児童労働、劣悪な労働条件といった労働権の侵害に関連する問題に直面しています。この国の漁業は移住労働者に依存しており、このため債務による隷従やその他の形の搾取を受ける可能性があります。

昨年のタイで最も大きなリスクの変化の一つに、児童労働の違反におけるリスク増があり、EiQ ではタイのスコアが 16% 近く悪化していました。米国労働省 (DoL) の 2022 年児童労働調査報告書によると、2021 年にミャンマーとタイ間の移民が増加した結果、児童労働に従事する移民児童が増加したことが示されています。DoL はまた、タイでは公式文書で年齢を偽る人材派遣会社の事例の増加が見られるとも報告しており、「農業に従

事する子供は、重い物を持ち上げることによる健康リスクに直面し、危険な機械や尖った装置を使うことによる負傷の危険を冒し、さらに農薬や日射や暑さ、早朝から深夜までの長時間労働にさらされている」と報告しています。¹

タイの安全衛生上の違反リスクは、製造における化学物質への曝露や建築における危険な機械、農作業の肉体的要求など、この国で広く見られる特定の労働衛生上の危険に起因している可能性があります。こうした危険は、労働関連の疾病や負傷の発生率を高める一因となっています。タイはまた大きな非公式経済の国でもあり、労働規制の問題が安全衛生のリスクを悪化させる可能性があります。

タイの主要輸出品

- 自動車および自動車部品
- 電子機器
- 農産物
- 食品および飲料品
- 繊維製品および衣料品

1 米国労働省 2022 年、最悪の児童労働形態に関する指摘



リスクに関する洞察を活用した積極的なリスク是正の強化

認識があれば措置を講じる機会も生まれます。リスクを掘り下げて明らかにし、サプライチェーンの ESG リスクの状況についてより幅広い知識を得ることにより、企業は改善されたリスクマネジメントや軽減策を実施できるようになることが可能です。各政府は人権侵害や環境への影響を規制するために取り組むことはできますが、実際に変化を創出し、より高い価値を生み出すという責任は、最終的には企業が負うことになります。

LRQA のリスク評価は、企業に新たな可視性を提供し、業務、評判、財務実績に対する潜在的な脅威を特定し、軽減するためのより予防的なアプローチを可能にします。これは、データ主導の洞察を活用して、企業の ESG 戦略とサプライチェーンの完全性の改善を支援する「アシュアランス 4.0」の時代であるといえます。レポートで指摘された重大なリスクに対処するためには、新たな危機感が必要です。また、最もリスクの大きい分野をより正確に把握するためには、透明性を向上させる必要があります。透明性の向上は、データの信頼性と質の高さにつながります。これはつまり、監査員が監査中

に虚偽の可能性を示す兆候を理解し、識別できるように訓練すること、労働者の声をデータセットに統合すること、そして、組織の誠実性と方針に準拠した現場を確保するための能力開発策を実施することを意味します。

解決策は、効果的なリスクの是正と軽減にあります。サプライチェーンとそのリスク、リスクへの脆弱性はそれぞれ大きく異なるため、単一の方法では十分ではありません。企業はまず、サプライチェーンの個々のニーズと優先事項をより深く理解し、信頼性が高く検証済みのデータを導入して、リスクのより詳細な診断を行うべきです。リスクと潜在的なリスクの領域がより明確に把握できれば、企業は適切にツールや技術を導入し、サプライチェーンに存在する ESG リスクを監視、緩和、是正措置を講じることができます。

労働者の健康と安全が脅かされていることは言うまでもなく、サプライチェーンの業務が環境に与える影響も懸念されます。2013 年のバングラデシュのラナプラザビル崩壊のような悲劇や、世界中で続く不当な労働条件による労働者のストライキなど、これらのリスクが見過ごされた場合に何が起こり得るか、我々は目の当たりにしています。これらの根本的な事実こそが、企業が責任ある調達を改善し、デューデリジェンスを推進する原動力となるべきです。

EiQ について



LRQA の EiQ プラットフォームは、世界初のエンドツーエンドのサプライチェーン ESG デューデリジェンスおよび保証プラットフォームです。各企業の独自のサプライチェーンに合わせたリスクベースのプログラムを可能にすることで、責任ある調達における「画一的な対応」という従来の考え方を変えるものです。

EiQ は、企業や小売業者が ESG（環境、社会、ガバナンス）に関するデューデリジェンスと保証を強化するために使用するデータ主導型のプラットフォームです。このプラットフォームは、LRQA の核となる 3 つのアプリケーション（分析、評価、学習）を統合し、責任ある調達プログラムを変革させ、持続可能な取引を促進する包括的な ESG ソリューションを提供する単一の継続的な業務フローとして提供されます。

75,000,000件以上
監査のデータポイント

監査データ

年間 25,000 件を超える監査
監査当たり 300 を超えるデータポイント
10 年を超える監査歴

労働者の視点

月間 6,000 件を超える苦情処理メカニズム
年間 3,000 件を超える労働者調査

e ラーニングデータ

100 万コース以上を完了

500,000個以上
指標値

分析データ

50 項目を超えるサプライチェーン指標 | 200 を超える地域
20 を超える主要部門 | 400 種を超える製品およびサービス
敵対的メディアに対する監視が行われる
200,000 を超える事業体

企業のスコアカード

500 社を超える多国籍企業

ベンダーのスコアカード

15,000 社を超えるベンダーのプロフィール

現場のスコアカード

50,000 カ所を超える特有の工場や農場

250,000以上
事業体

地理リスク評価に対するデータの入手性

2023

105  国レベルのリスク値と関連する信頼値	27  中国に対する省レベルのリスク値と関連する信頼値	21  インドに対する州レベルのリスク値と関連する信頼値	33  米国に対する州レベルのリスク値と関連する信頼値	7  ベトナムに対する地域レベルのリスク値と関連する信頼値
--	---	--	---	---

2022

100  国レベルのリスク値と関連する信頼値	28  中国に対する省レベルのリスク値と関連する信頼値	21  インドに対する州レベルのリスク値と関連する信頼値	35  米国に対する州レベルのリスク値と関連する信頼値	7  ベトナムに対する地域レベルのリスク値と関連する信頼値
--	---	--	---	---

2021

80  国レベルのリスク値と関連する信頼値	28  中国に対する省レベルのリスク値と関連する信頼値	21  インドに対する州レベルのリスク値と関連する信頼値	36  米国に対する州レベルのリスク値と関連する信頼値	8  ベトナムに対する地域レベルのリスク値と関連する信頼値
---	---	--	---	---

値の算出

地理および製品の ESG リスク評価については、国、省レベルまたは部門レベルで全ての違反が集計され、その平均を 0 ～ 10 までの尺度で正規化しています。

各指標の値は以下のように転換します

リスク帯		評価	
極めて高い	0 - 2.49	D	0 - 2.49
高い	2.50 - 4.99	C	2.50 - 4.99
平均的	5.00 - 7.49	B	5.00 - 7.49
低い	7.50 - 10	A	7.50 - 10

監査データ

LRQA は年間 25,000 件以上の現場で社会アセスメントや環境アセスメントを行っています。

アセスメントデータは国や地方、部門レベルで標準化し集計します。

市民団体データ

監査が強制労働のような具体的違反を証明する可能性が低い場合や監査件数が少ない国々の場合、LRQA は信頼できる国際的な組織や NGO からの市民団体データを活用してリスク情報を補完します。

サプライチェーンの信頼度が以下の場合	市民団体の組み込み率	サプライチェーンの組み込み率
0%（監査がない）	100%	0%
> 90% - < 100%	10%	90%
> 80% - < 90%	20%	80%
> 70% - < 80%	30%	70%
> 60% - < 70%	40%	60%
> 50% - < 60%	50%	50%
> 40% - < 50%	60%	40%
> 30% - < 40%	70%	30%
> 20% - < 30%	80%	20%
> 10% - < 20%	90%	10%

EiQセンチネルのデータ

LRQA は監査や市民団体のデータ群から集めたリスク情報を補完するため、25 万を超える事業体を毎月スキャンして集めた非常に局地的な現地語による公開情報を活用しています。その理由は、制裁リストに掲載されている事業体の存在から、強制労働の実行や労働者の死亡に関連する証拠に至るまで、センチネルが監査や市民団体には捉えられないデータポイントを捉えることができるからです。



YOUR FUTURE. OUR FOCUS.

LRQAについて

LRQAは、評価、アドバイザリー、検査、サイバーセキュリティサービスにおける数十年にわたる比類のない専門知識を結集した、世界をリードするグローバル・アシュアランス・パートナーです。

LRQAのソリューションベースのパートナーシップは、データ主導の洞察力によって支えられており、お客様の最大の経営課題の解決を支援します。150カ国以上で5,000人以上によるチームを擁するLRQAでは、受賞歴に輝くコンプライアンス、サプライチェーン、サイバーセキュリティ、ESGの専門家が、ほぼすべてのセクターにわたり61,000社を超えるクライアントのために、事業の場所を問わずリスクの予測、軽減、管理を支援しています。

LRQAは、従業員とお客様、地域社会、そして地球環境のために、より良い未来を形作ることに全力を尽くします。

問い合わせ先

詳細については、<https://www.lrqa.com/ja-jp/>をご覧ください。



LRQA リミテッド
〒220-6010
横浜市西区みなとみらい2-3-1
クイーンズタワーA10階

提供する全ての情報は正確かつ最新のものであることを保証するよう注意は払っておりますが、LRQAは情報の間違いや変更について一切責任を負うものではありません。